

令和5年度

事業概要

仙台市北部発達相談支援センター
仙台市南部発達相談支援センター

目 次

I 発達相談支援センターの概要

1 沿 革	1
2 機 構	1
3 施設概要	2
4 組織・職員体制	4
5 業務分担	5

II 相談業務

1 発達相談状況	6
2 ライフステージ別の相談状況	
(1) 乳幼児相談	9
(2) 学齢児相談	11
(3) 成人相談	13
3 就学前療育支援	
(1) 初期療育グループ（乳幼児支援係）	15
(2) やまびこルーム	17
(3) 児童発達支援センターとの連携	18
(4) 特別支援保育申請時の評価	19
4 発達評価	
(1) 心理評価	20
(2) 運動評価	20
(3) 言語評価	20
5 医療相談・スーパーバイズ	21
6 療育手帳交付状況及び所持者数	22
7 地域生活支援状況	23
8 児童福祉施設等入所状況	24

Ⅲ 市民啓発・ネットワーク形成

1 市民啓発

(1) 各種研修会・セミナー等の開催	25
(2) 広報紙の発行	29
(3) 発達障害児者支援総合情報提供冊子の活用	29
(4) 各種情報の提供	29

2 ネットワーク形成

(1) 家族教室等	30
(2) おもちゃ作成ボランティア	33
(3) 関係機関ネットワーク会議	34

3 発達障害児者支援体制整備

(1) 地域生活支援事業	36
(2) 発達障害者支援地域協議会	38
(3) 仙台市医療的ケア児（者）支援体制整備事業	39
(4) 発達障害児緊急対応事業	41

4 講師派遣状況

5 視察・実習受入状況

Ⅳ 参考資料

1 南北別 発達相談件数	45
2 アーチルニュース『ちえなっぷ』第35号	46

I 発達相談支援センターの概要

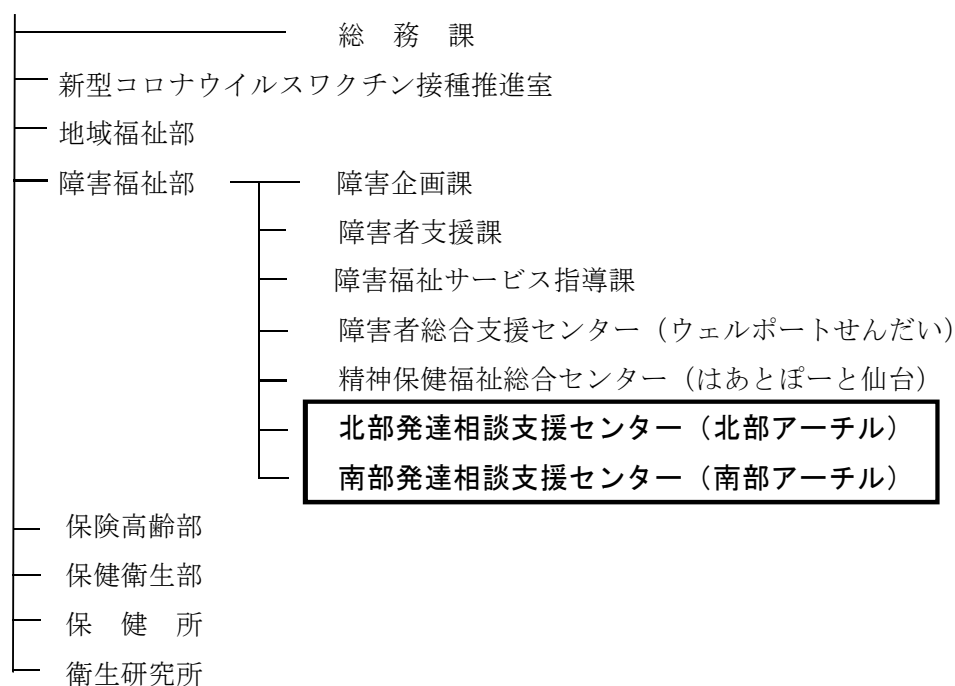
(令和5年4月1日現在)

1 沿革

昭和53年4月	仙台市心身障害者相談センター設置
平成元年4月	政令指定都市移行に伴い、仙台市児童相談所設置
平成4年4月	仙台市身体障害者更生相談所設置
平成5年4月	仙台市知的障害者更生相談所設置
平成8年4月	知的障害者更生相談所と身体障害者更生相談所を統合し仙台市障害者更生相談所を設置
平成10年度	仙台市リハビリテーション検討委員会より当センター設置の提言
平成14年4月	児童相談所の障害相談・判定業務と障害者更生相談所の知的障害相談・判定業務を統合し仙台市発達相談支援センターを設置
10月	自閉症・発達障害支援センターに承認（現：発達障害者支援センター）
平成23年5月	仙台市南部発達相談支援室設置
平成24年1月	仙台市南部発達相談支援室を組織改正して仙台市南部発達相談支援センター設置（仙台市発達相談支援センターを仙台市北部発達相談支援センターに名称変更）
平成29年4月	やまびこホームを廃止し、北部・南部発達相談支援センターへ機能移転

2 機構

健康福祉局



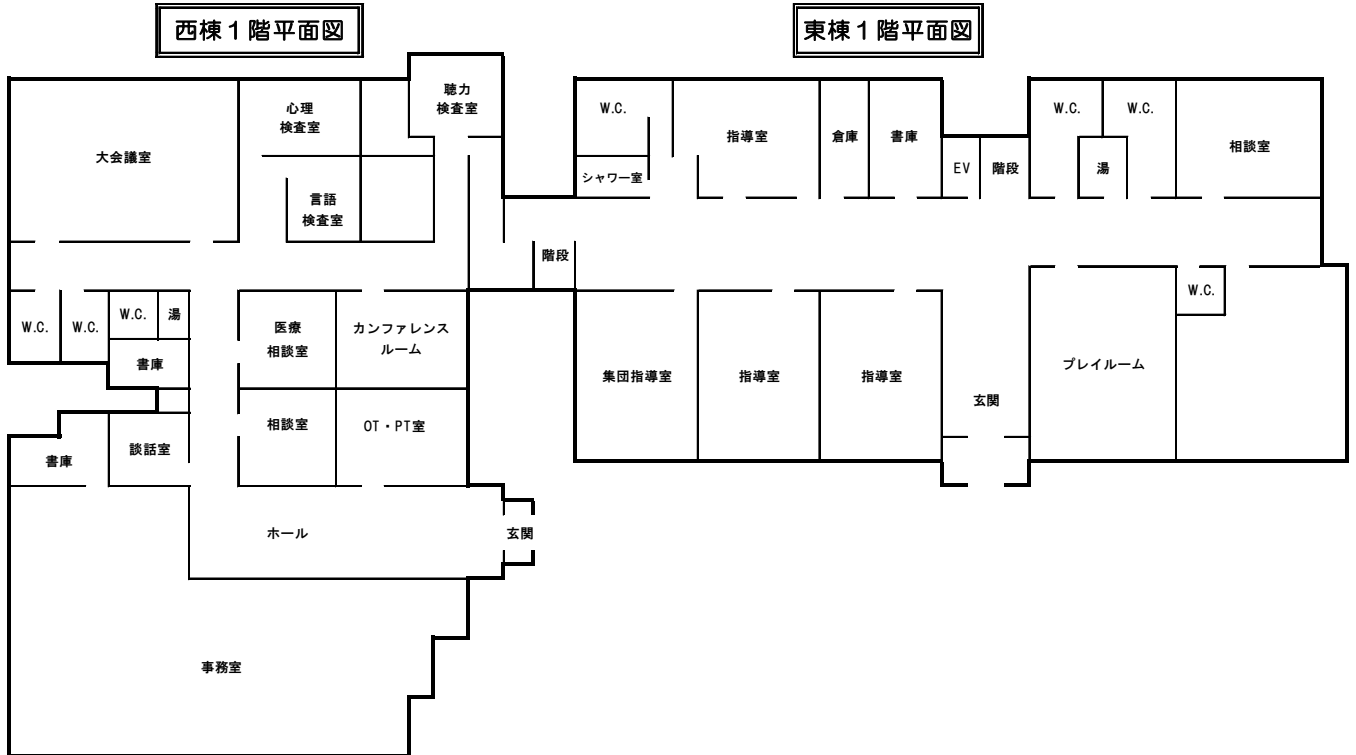
※「アーチル」とは「アーチ (arch: 橋)」と「パル (pal: 仲間)」とをかけたもので、センターが障害のある方と市民の「架け橋」になるようにとの願いを込め、市民公募によってつけていただいた愛称です。

3 施設概要

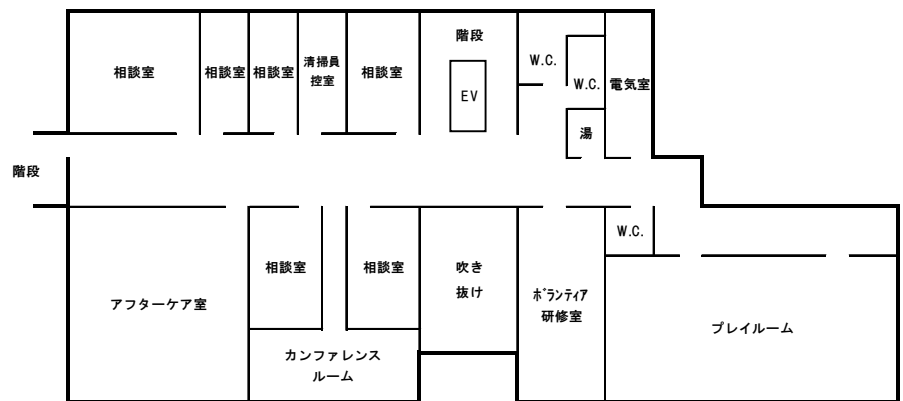
(北部発達相談支援センター)

- ・所在地 〒981-3133 仙台市泉区泉中央二丁目24番地の1
- ・建設 平成13年8月改築工事着手 平成14年3月竣工
- ・構造 鉄筋コンクリート2階建て
- ・敷地面積 約4,200㎡
- ・延床面積 2,845.34㎡
- ・建物状況 (平面図)

(西棟は仙台市健康増進センター、障害者総合支援センター、乳がん検診センターと併設)



東棟2階平面図 (East Building 2nd Floor Plan)



※ W.C. … 化粧室
EV … エレベーター

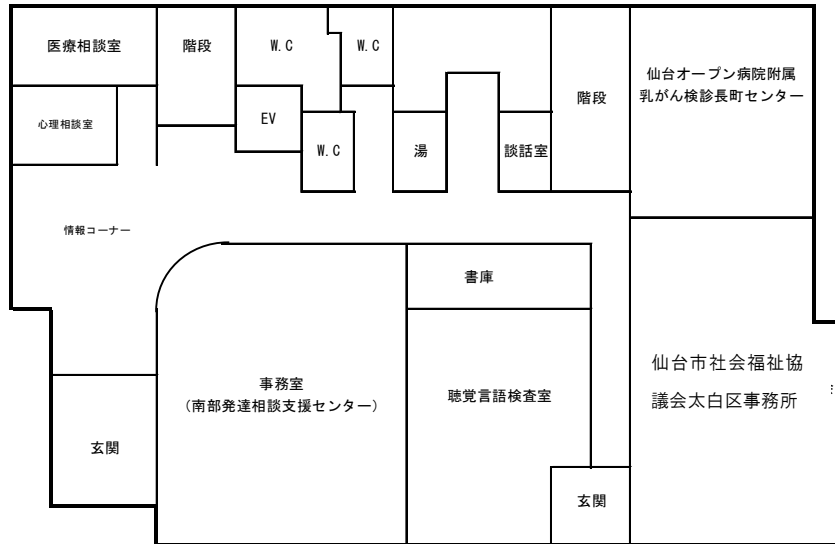
(南部発達相談支援センター)

- ・所在地 〒982-0012 仙台市太白区長町南三丁目1番30号
- ・建設 平成22年10月新築工事着手 平成23年11月竣工
- ・構造 鉄筋コンクリート3階建て
- ・敷地面積 約1,800 m²
- ・延床面積 1,984.23 m²

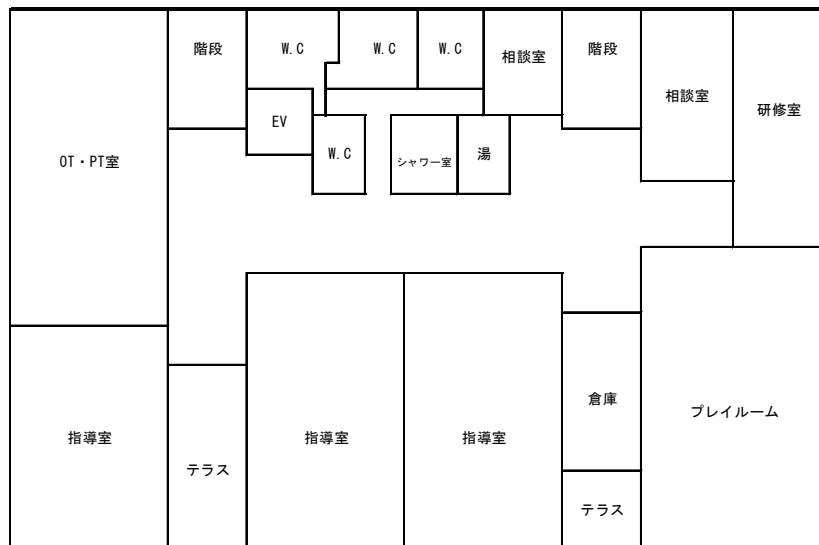
(仙台市社会福祉協議会太白区事務所及び仙台オープン病院附属乳がん検診長町センター含む)

- ・建物状況 (平面図)

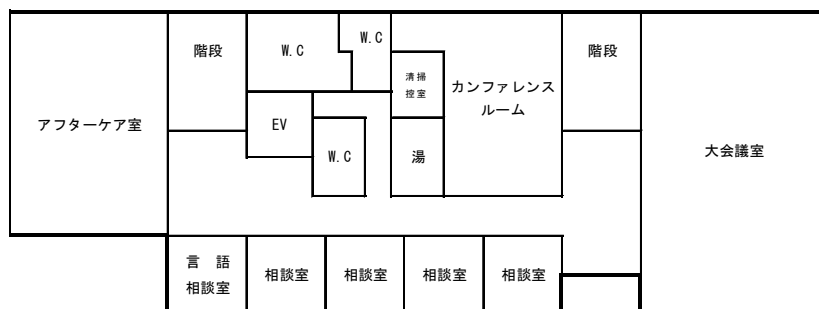
1階平面図



2階平面図



3階平面図



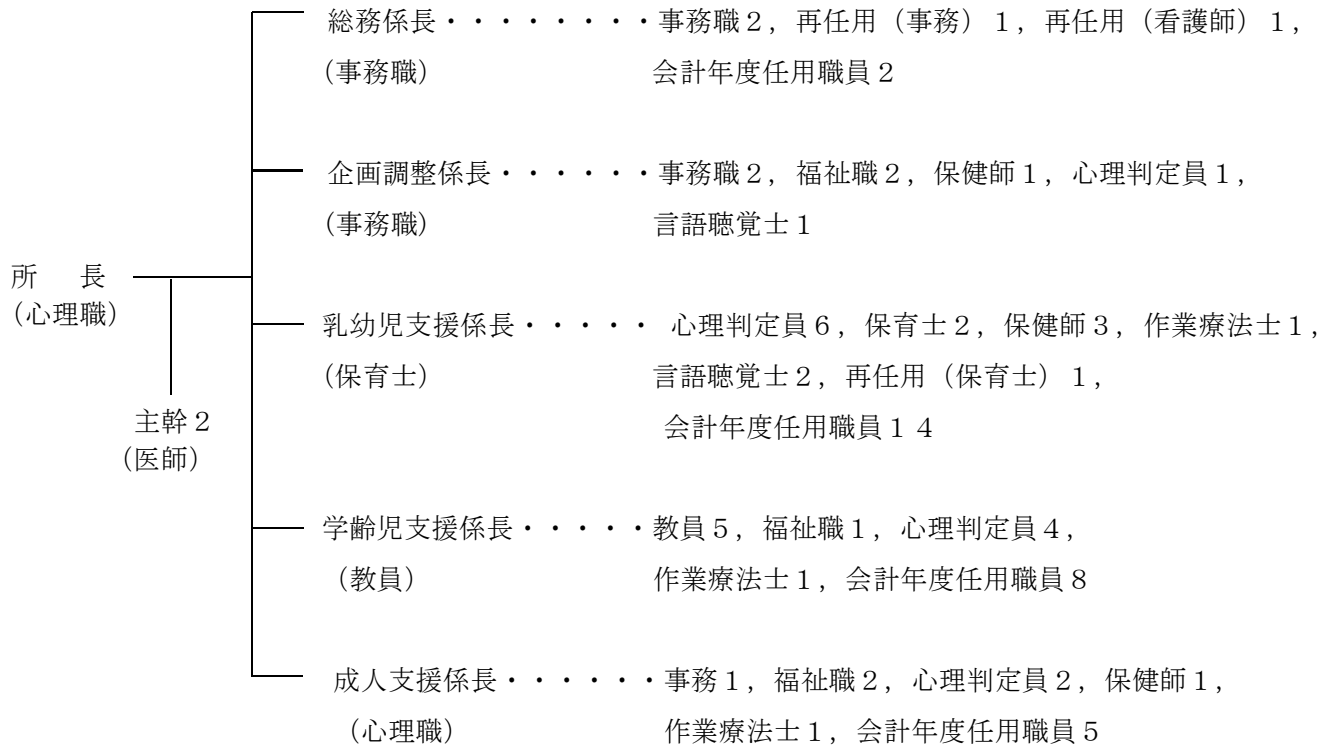
※W.C … 化粧室

EV … エレベーター

4 組織・職員体制

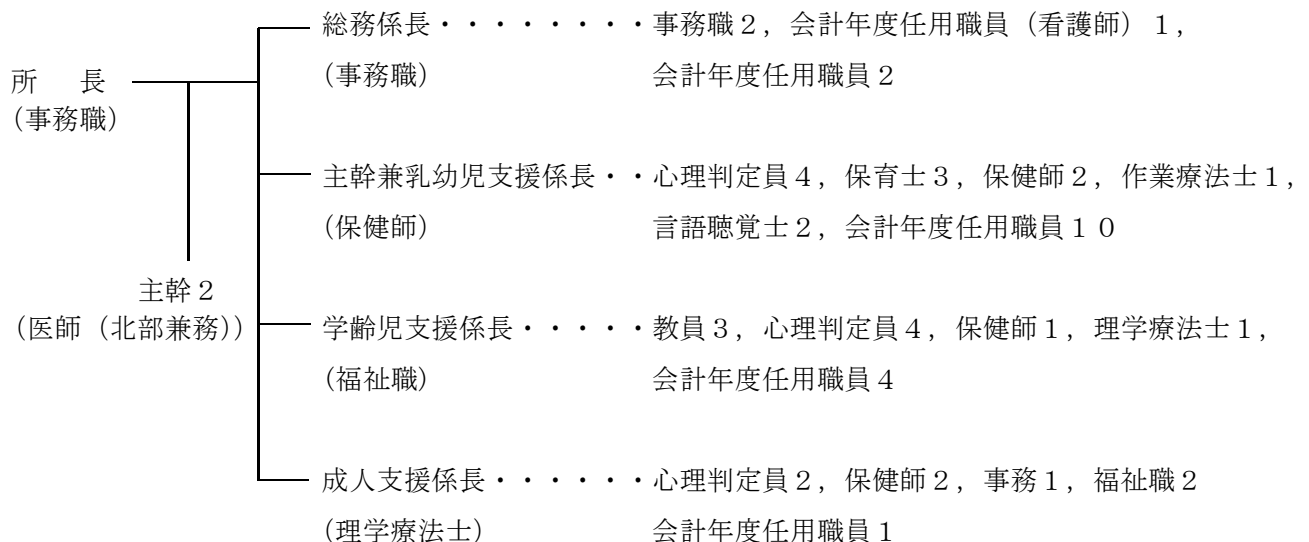
(令和5年4月1日現在)

北部発達相談支援センター



(心理職 2, 医師 2, 事務 7, 教員 6, 福祉職 5, 心理判定員 13, 保育士 3, 保健師 5, 作業療法士 3, 言語聴覚士 3, 再任用 (事務) 1, 再任用 (看護師) 1, 再任用 (保育士) 1, 会計年度任用職員 29)

南部発達相談支援センター



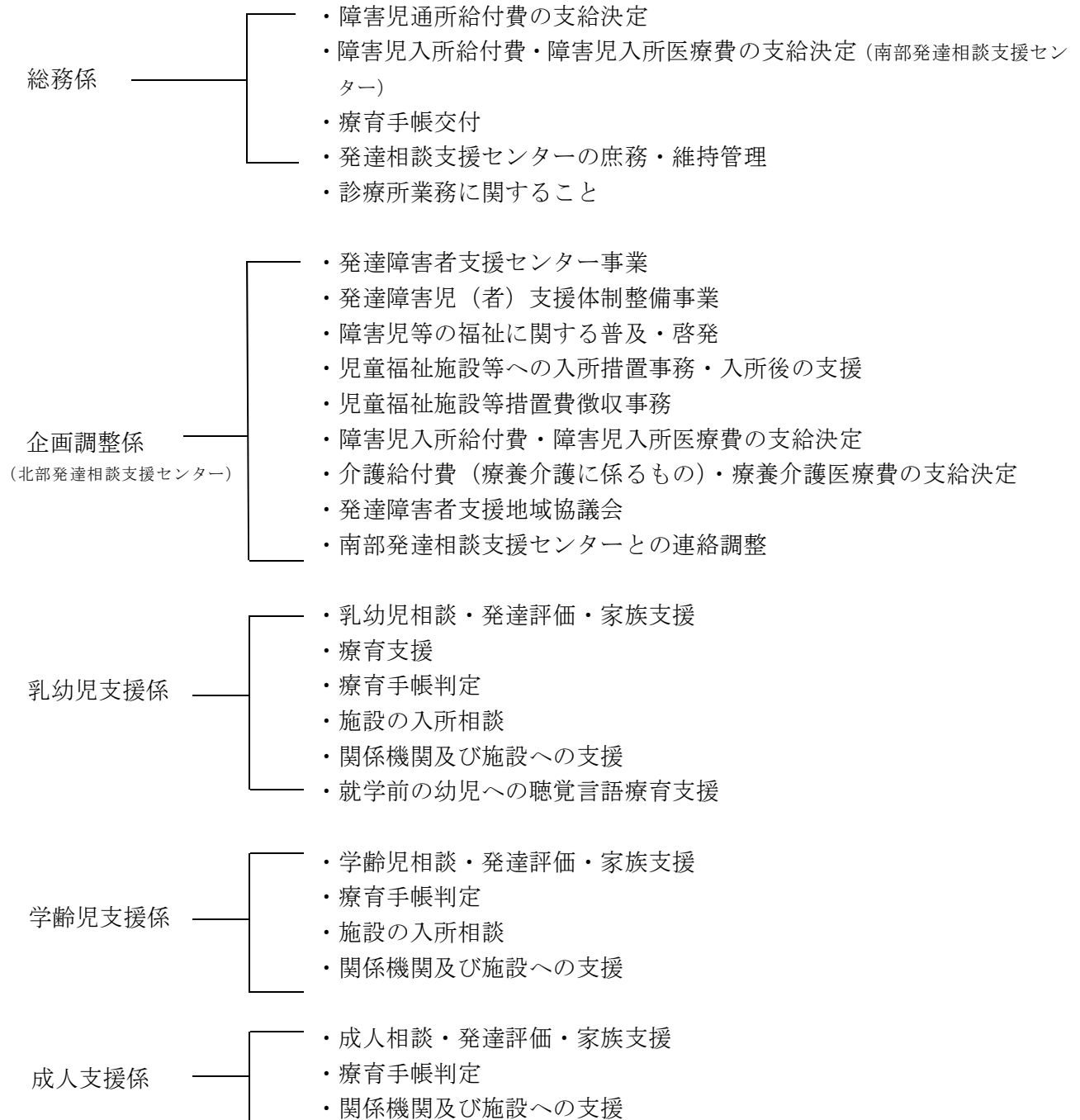
(医師 (北部兼務) 2, 事務 5, 教員 3, 福祉職 3, 心理判定員 10, 保育士 3, 保健師 6, 理学療法士 2, 作業療法士 1, 言語聴覚士 2, 会計年度任用職員 (看護師) 1, 会計年度任用職員 17)

嘱託医 北部, 南部発達相談支援センター兼務・・・医師 1 1

5 業務分担

(令和5年4月1日現在)

※ 青葉区・宮城野区・泉区を北部発達相談支援センターが、若林区・太白区を南部発達相談支援センターが所管する。



※ 発達相談支援センターは、発達障害者支援センターの業務、知的障害者更生相談所の業務、児童相談所の一部業務（障害児相談）を担っている。

II 相談業務

1 発達相談状況

発達相談支援センターでは、開設以来、本人と家族が住み慣れた地域の中で、様々な人たちとともに主体的に生活することができるよう、「ケアマネジメント」の手法により本人と家族の「地域でどのような生活をしたいか」という思いを中心として相談・支援を行ってきた。

○発達相談件数

令和4年度の相談総数は12,668件であり、乳幼児相談が3,723件(29.4%)、学齢児相談が5,647件(44.6%)、成人相談(18歳以上対象)が3,298件(26.0%)となっている。

過去10年間の相談数の推移、新規相談者の年齢別分布、新規・継続相談のライフステージ別内訳の推移は表1-1、図1-1、1-2、1-3のとおりである。

また、令和4年度に継続相談(2回目以降の相談)を行った実人数は5,584人であり、ライフステージ別内訳の推移は図1-4のとおりである。

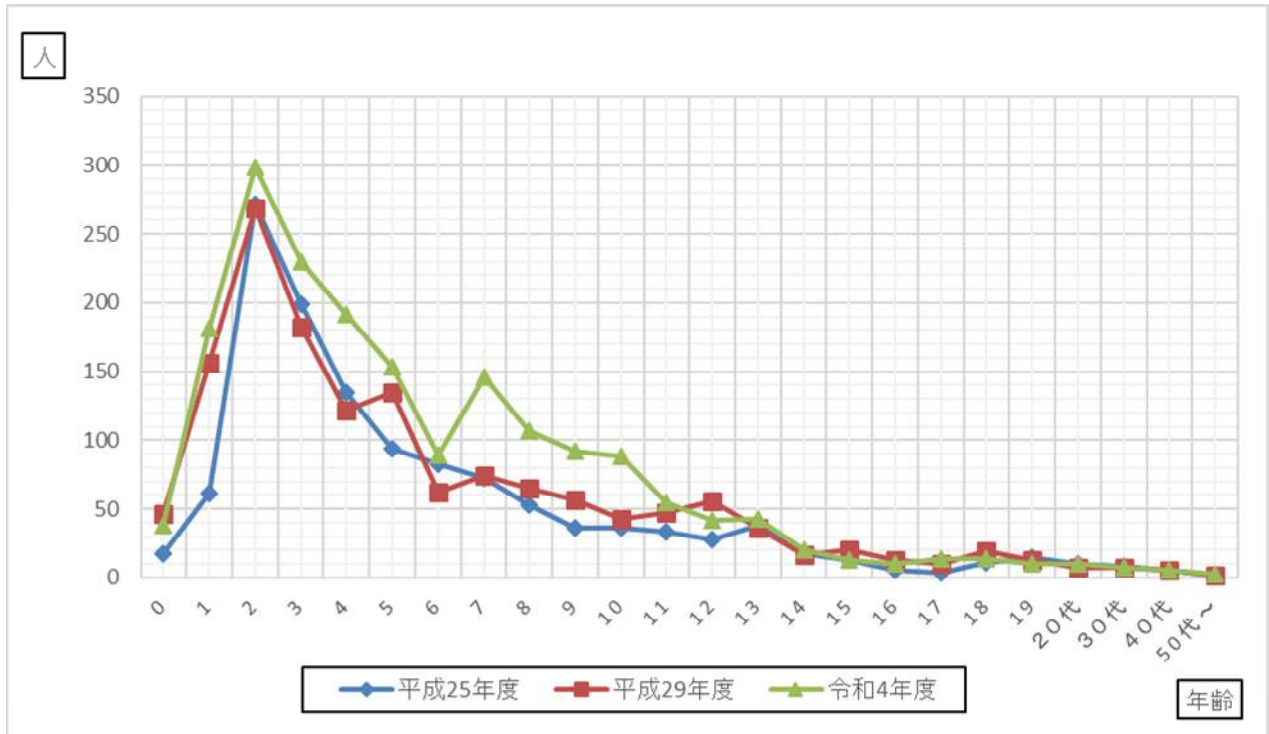
(表1-1) 過去10年間の相談数

(単位：件)

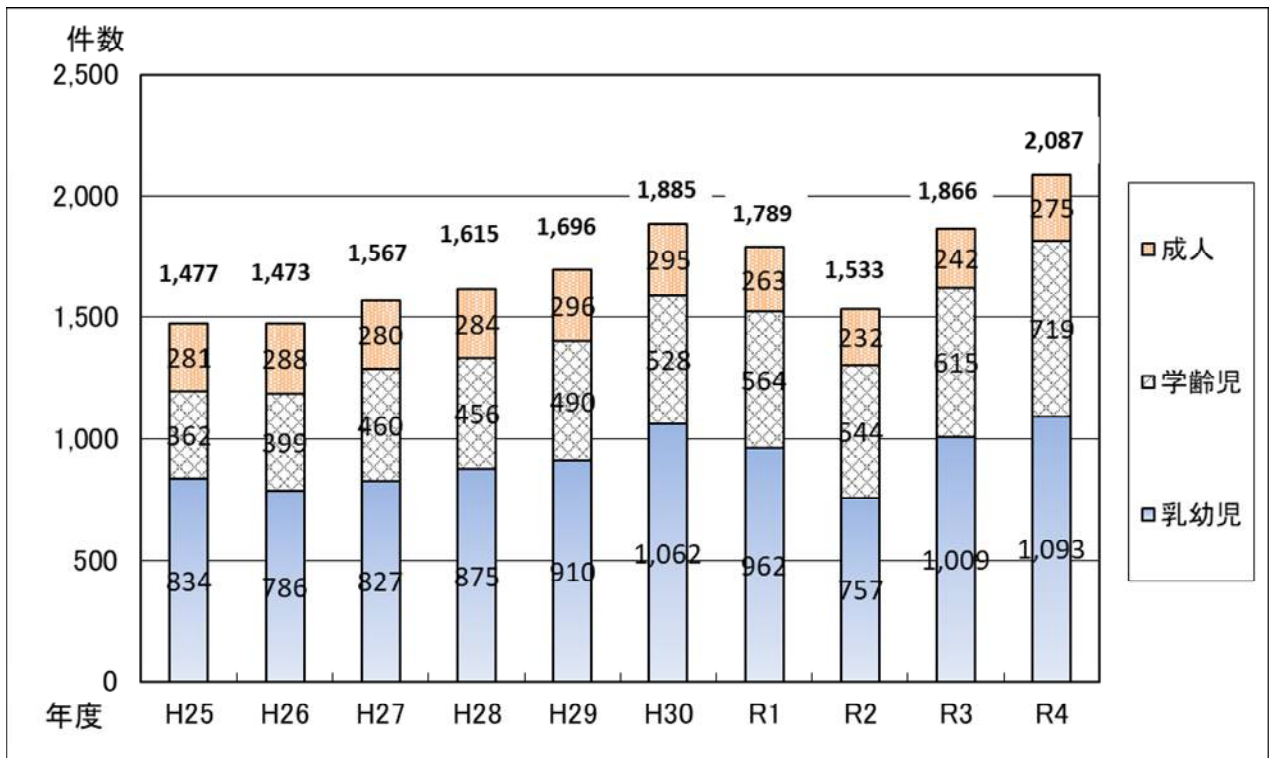
	年 度	乳幼児相談	学齢児相談	成人相談	合 計
新規相談	H25年度	834	362	281	1,477
	H26年度	786	399	288	1,473
	H27年度	827	460	280	1,567
	H28年度	875	456	284	1,615
	H29年度	910	490	296	1,696
	H30年度	1,062	528	295	1,885
	R1年度	962	564	263	1,789
	R2年度	757	544	232	1,533
	R3年度	1,009	615	242	1,866
	R4年度	1,093	719	275	2,087
継続相談	H25年度	2,256	2,478	3,679	8,413
	H26年度	2,754	3,016	3,747	9,517
	H27年度	2,533	3,102	3,413	9,048
	H28年度	2,392	2,836	3,440	8,668
	H29年度	2,336	2,870	3,322	8,528
	H30年度	2,870	3,922	3,308	10,100
	R1年度	2,709	4,339	3,205	10,253
	R2年度	2,345	4,543	3,149	10,037
	R3年度	2,410	4,921	3,444	10,775
	R4年度	2,630	4,928	3,023	10,581
合 計	H25年度	3,090	2,840	3,960	9,890
	H26年度	3,540	3,415	4,035	10,990
	H27年度	3,360	3,562	3,693	10,615
	H28年度	3,267	3,292	3,724	10,283
	H29年度	3,246	3,360	3,618	10,224
	H30年度	3,932	4,450	3,603	11,985
	R1年度	3,671	4,903	3,468	12,042
	R2年度	3,102	5,087	3,381	11,570
	R3年度	3,419	5,536	3,686	12,641
	R4年度	3,723	5,647	3,298	12,668

(図1-1) 新規相談者の年齢分布

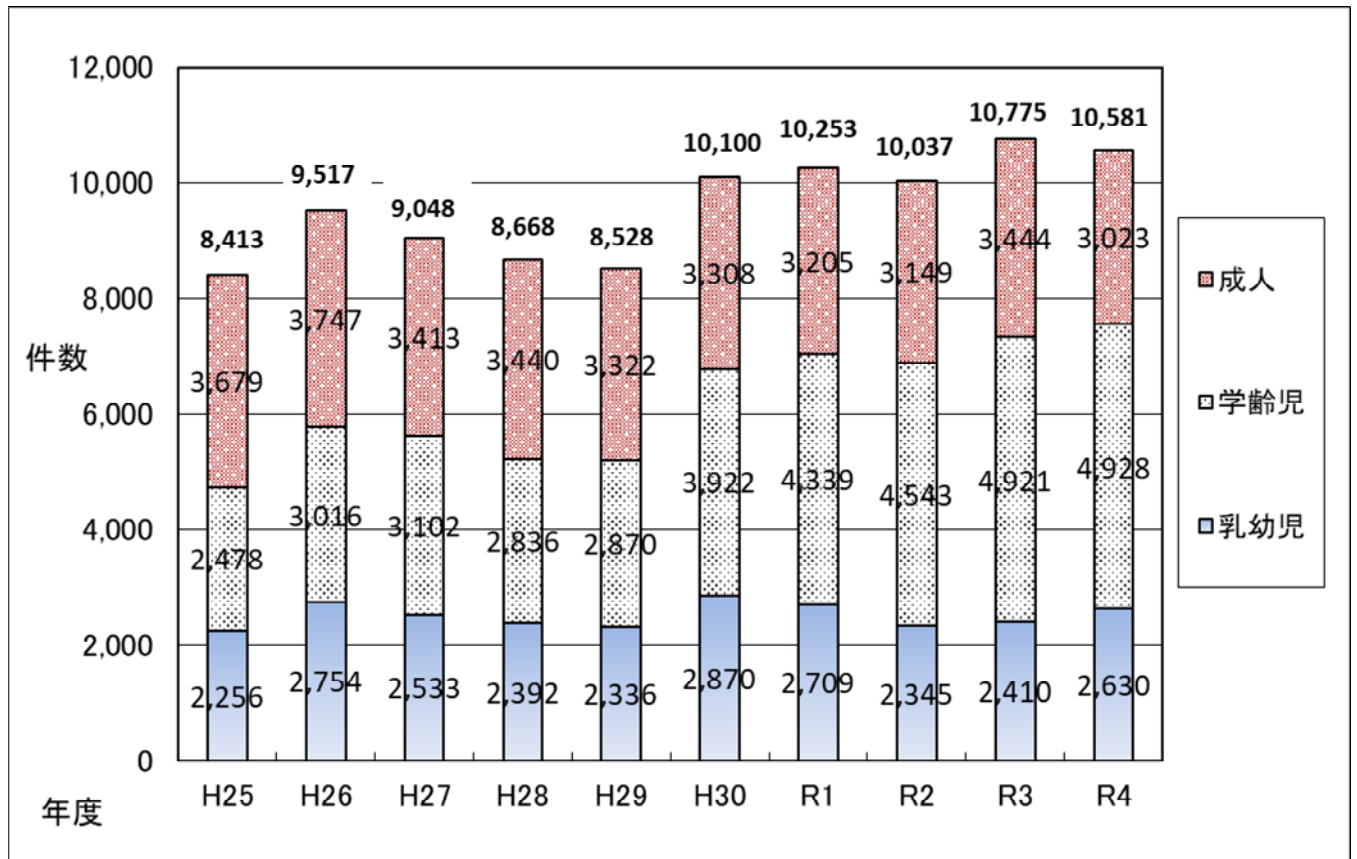
※20代以降は、各年代の平均値を示している



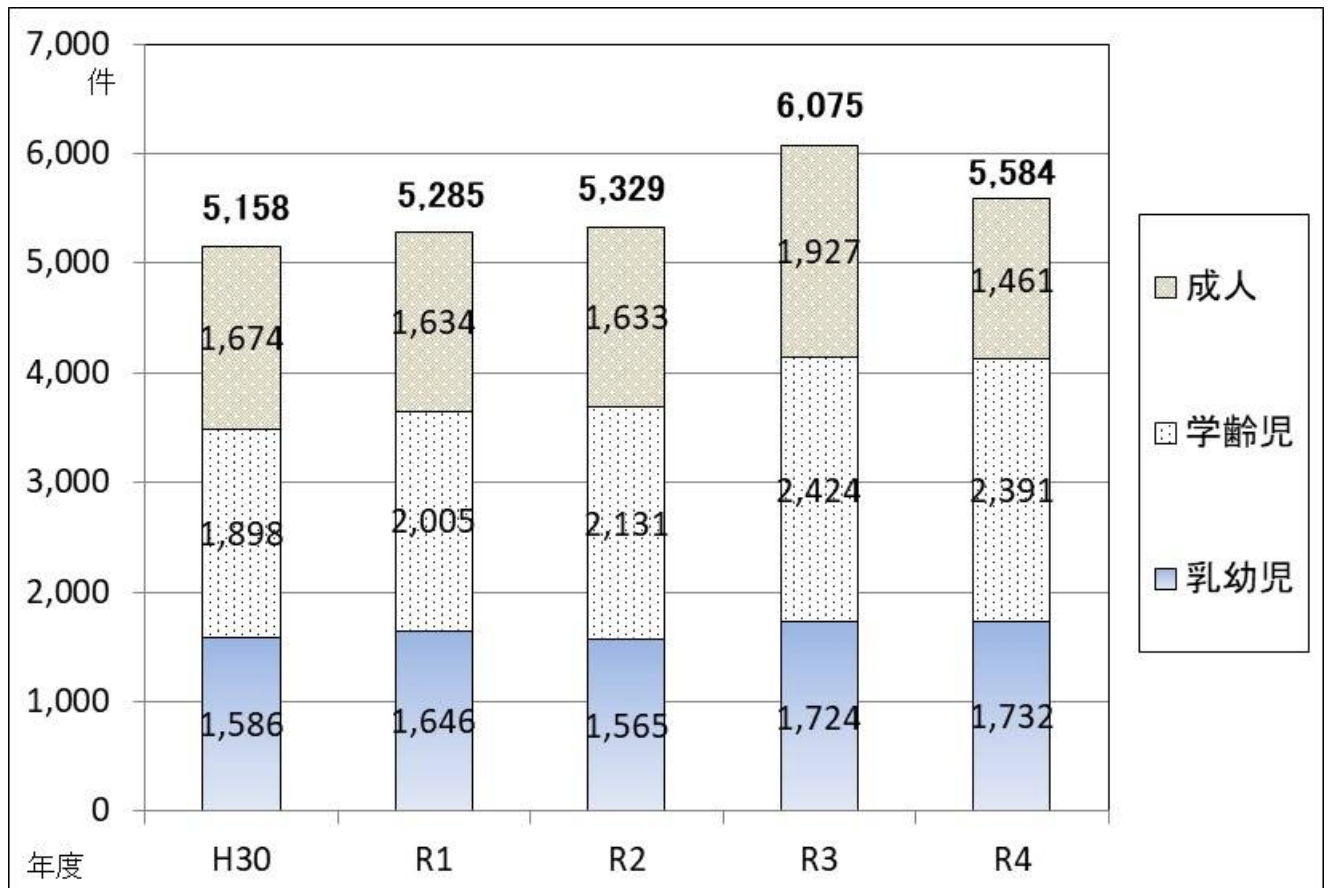
(図1-2) 過去10年間の新規相談のライフステージ別内訳



(図1-3) 過去10年間の継続相談のライフステージ別内訳 (延べ件数)



(図1-4) 平成30~令和4年度 継続相談実人数



2 ライフステージ別の相談状況

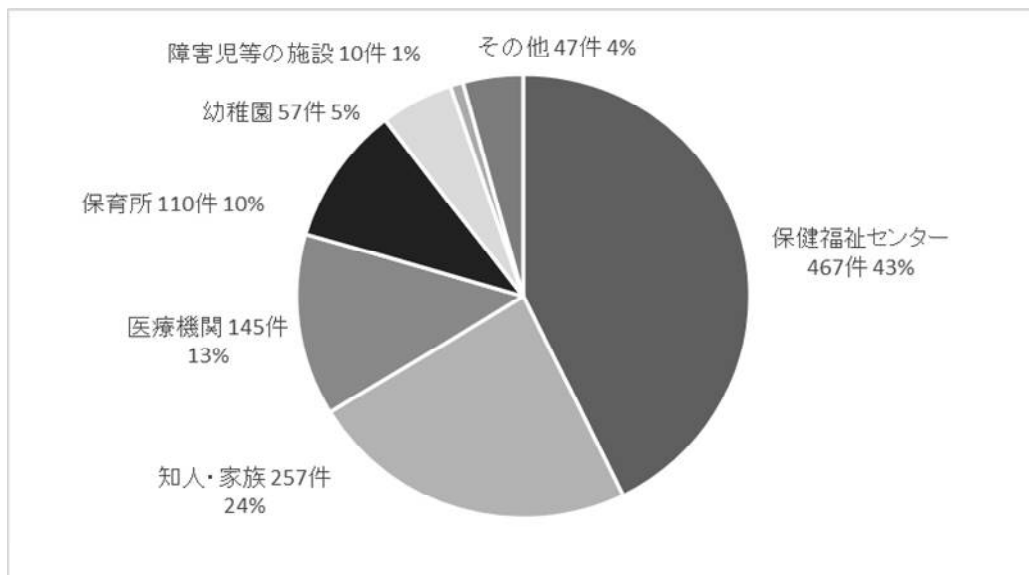
(1) 乳幼児相談

①新規相談の傾向と支援状況

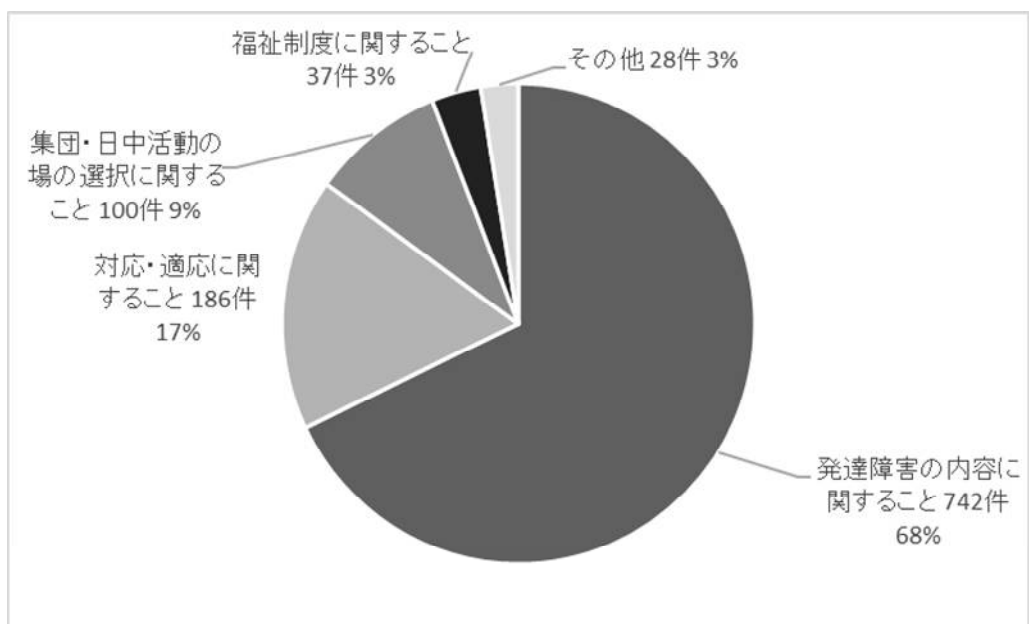
令和4年度の新規相談は1,093件である。紹介経路別件数は図2-1のとおりである。保健福祉センターと知人・家族からの紹介が多い。1歳6か月児健康診査や3歳児健康診査後の発達精密検査として紹介される例に加え、区での相談を経るケースも多く、早期出会い・早期支援につながっている。近年は家族が心配をして来所する件数が増加し、幼稚園・保育所に在籍している児の相談割合が増加している。

また、主訴別件数は図2-2のとおりで、「発達障害の内容に関すること」が最も多い。多くは健診や、保育所・幼稚園等通園先で相談を勧められての来所だが、発達障害に関する情報量の増加に伴い、家族が発達障害について調べた上で確認を求める相談や、「早期に対応を受けたい」と希望する家族も増えている。

(図2-1)新規相談の紹介経路別件数



(図2-2)新規相談の主訴別件数

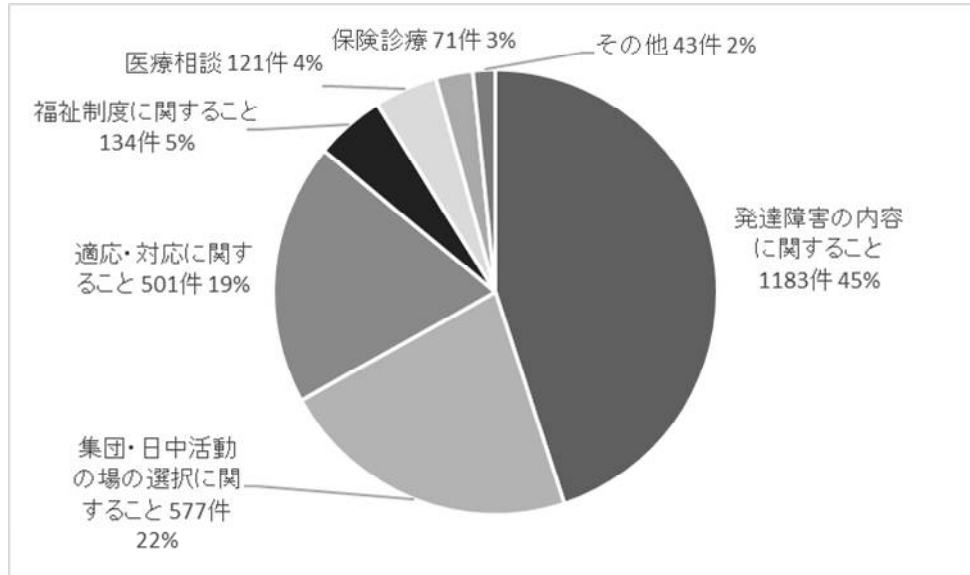


②継続相談の傾向と支援状況

令和4年度の継続相談は2,630件で、主訴別件数は図2-3のとおりである。

継続相談では、児の変化に合わせた発達状態の確認と、わが子の障害の理解を深めるためのものが多い。さらに、児に合わせた対応や適切な過ごしに関する相談が求められている。

(図2-3)継続相談の主訴別件数



③訪問等による支援

令和4年度新規相談・継続相談合わせて、訪問による相談支援件数は803件であり、その内訳は表2-1のとおりである。

(表2-1)訪問支援状況

(単位:件)

家庭	入所施設	児童発達支援センター 児童発達支援事業所	保育所	幼稚園	医療機関	その他	計
33	5	658	74	22	0	11	803

※その他は、保健福祉センター等

(2) 学齡児相談

①新規相談の傾向と支援状況

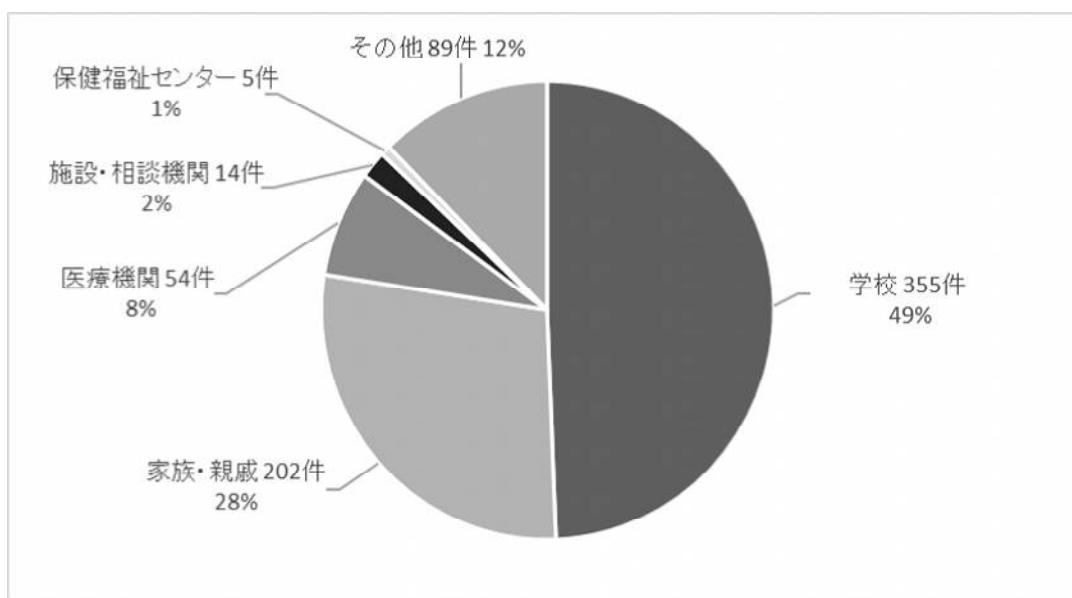
令和4年度の新規相談は719件であり、紹介経路別件数は図3-1、主訴別件数は図3-2のとおりである。

通常学級に在籍している子どもの相談が多く、紹介経路については学校・教育委員会から、次いで家族・親戚からが多い。相談の主訴については障害の内容に関する相談が最も多く、「発達障害ではないか」「学習についていけない」等、子どもの発達を心配し来所する相談者が増えている。次に家庭や学校等の集団生活での対応に関する相談が多い。

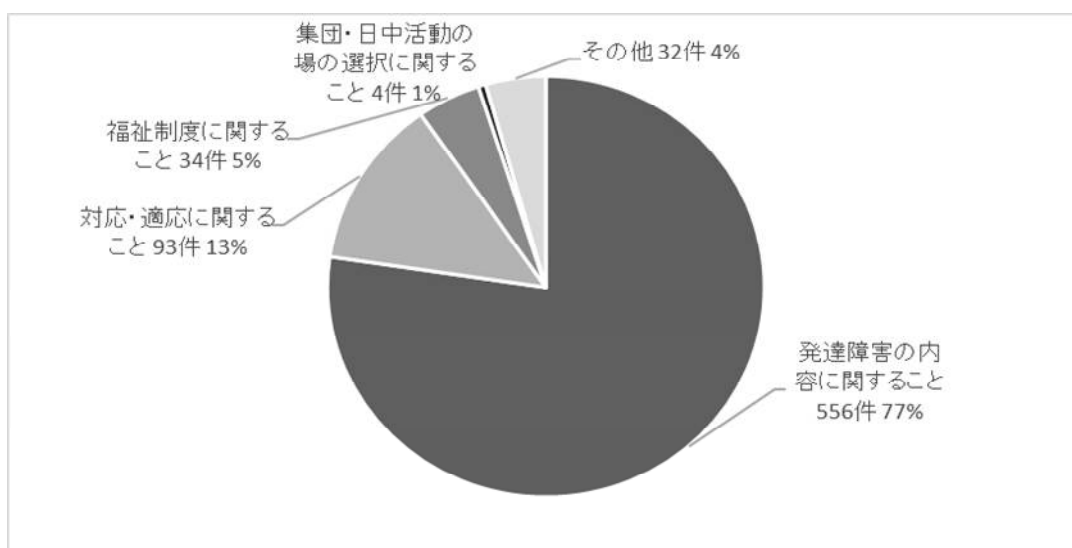
支援にあたっては、子どもの発達特性について保護者や学校と話し合いを行いながら、家庭や教育の場における子どもに適した環境の保障が行われるように努めている。

また、周囲の大人からの不適切な関わりや、睡眠不足、メディアの長時間使用などが、子どもの生活支障の要因となっているケースが増加しているため、基本的な生活習慣の整えやペアレントトレーニングの視点での関わりの助言なども行っている。

(図3-1)新規相談の紹介経路別件数



(図3-2)新規相談の主訴別件数



②継続相談の傾向と支援状況

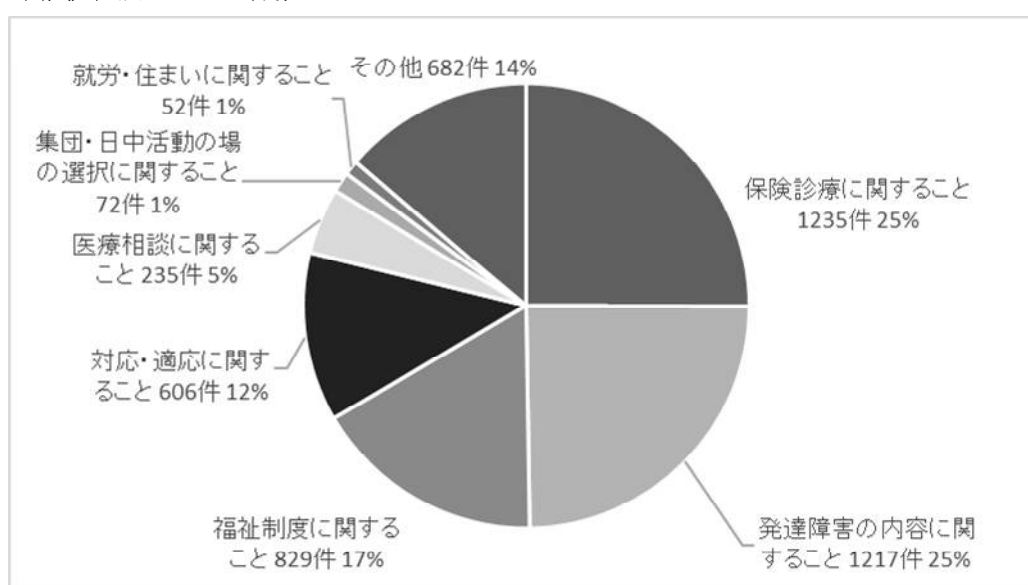
令和4年度の継続相談4,928件であり、主訴別件数は図3-3のとおりである。

通常学級に在籍している子どもでは、障害への理解とともに子どもの状態や発達の特徴に合わせた対応を学校と考えていきたいというものが多い。また、特別支援学級や特別支援学校に在籍する子どもは、パニックや自傷などの行動障害や生活上の困難さに関する相談が多く、学校も含めた関係機関との連携による継続的な地域生活支援が求められている。

主訴別状況では、保険診療でフォローアップしているケース、発達障害の内容に関するものがほぼ同数で最も多く、次いで療育手帳の判定を含めた福祉制度に関する相談となっており、それらを合わせると継続相談の約7割近くにのぼる。

また、令和4年度の訪問支援件数は787件であり、その内訳は表3-1のとおりである。

(図3-3)継続相談の主訴別件数



(表3-1)訪問支援状況

(単位:件)

家庭	入所・通所施設	放課後等デイサービス事業所	小学校(普通)	中学校(普通)	高校(普通)	小学校(特別支援)	中学校(特別支援)	高校(特別支援)	相談支援機関	医療機関	その他	計
79	109	20	169	32	6	119	69	97	42	15	30	787

※「その他」は、保健福祉センター等。

※特別支援の内訳は特別支援学校と特別支援学級。

(3) 成人相談

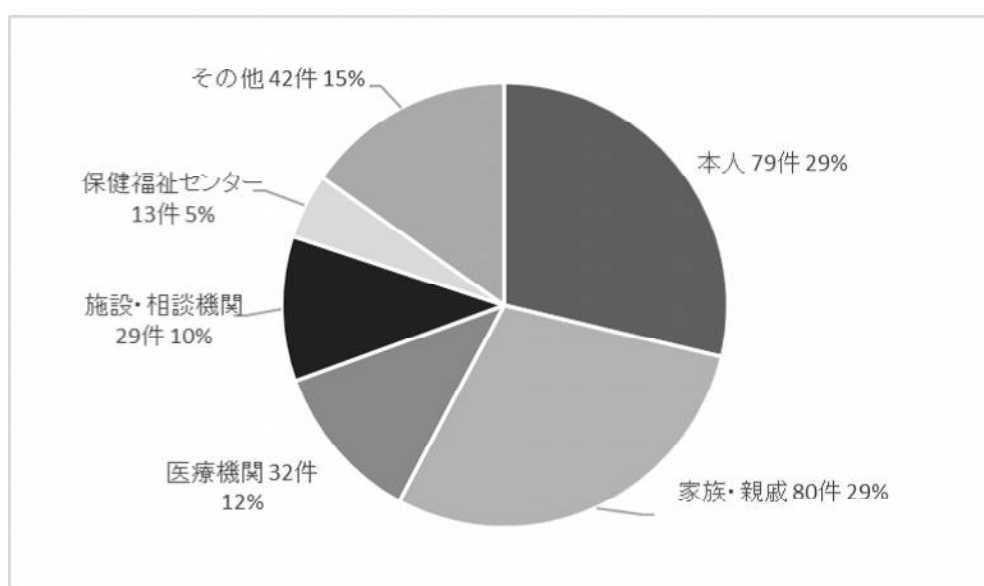
①新規相談の傾向と支援状況

令和4年度の新規相談は275件であり、その紹介経路別件数は図4-1のとおりである。インターネットやSNS等で得た発達障害の情報をもとに本人や家族から相談が寄せられることが多い。

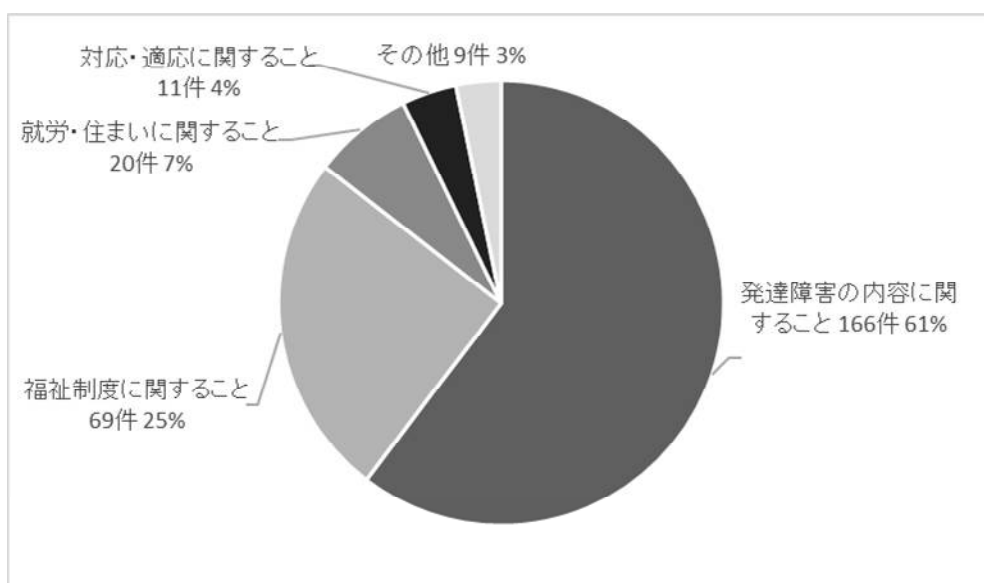
また、図4-2は、令和4年度の新規相談の主訴別件数である。新規相談のうち約6割は「発達障害の内容に関すること」（「発達障害なのではないか」等）となっている。

成人期の新規相談では、就労継続が困難になる等の生活のしづらさや生きにくさを、発達障害と結び付けて相談に至ることが多い。そのため、これらの表面的な相談内容からニーズの整理と状態のアセスメントを丁寧に行ったうえで、関係機関との連携による具体的ななかかわりや活動を通して、本人や家族のエンパワメントにつながるような支援を行っている。

(図4-1) 新規相談の紹介経路別件数



(図4-2) 新規相談の主訴別件数



②継続相談の傾向と支援状況

令和4年度の継続相談は3,023件である。継続相談の主訴別件数は図4-3のとおりである。

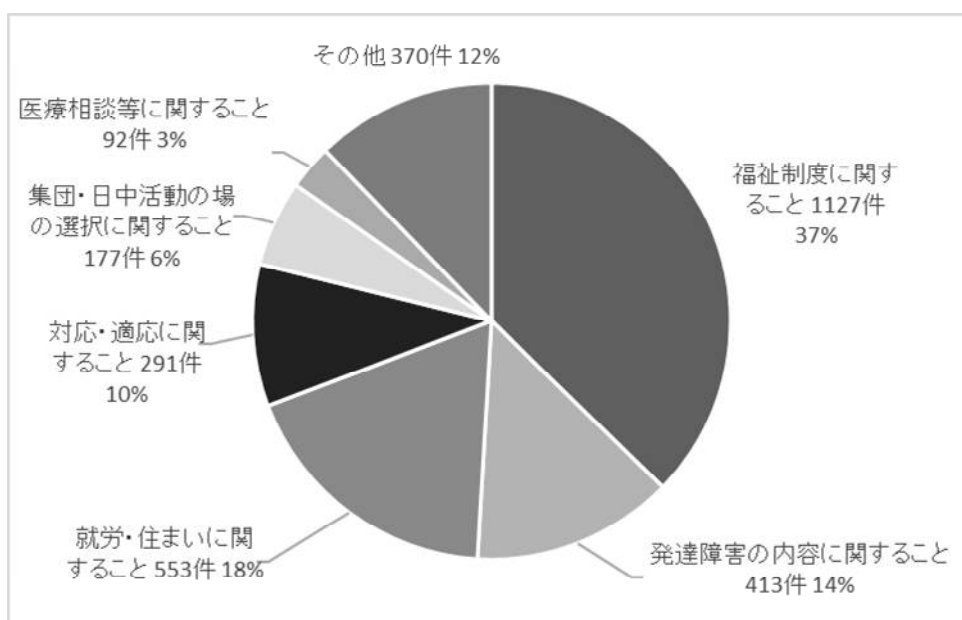
主訴については、福祉制度の利用に関する内容が最も多い。療育手帳の判定に関する内容の他にも、就労や生活の困難さの多様なニーズを整理しながら、福祉制度の利用に関する情報提供や動機付けなども含めて支援を行っている。特に20代の相談が最も多く、専門学校や大学生活の困難さから相談に至るケースや、就職活動や就労定着の課題から相談につながっている。

また、令和4年度の訪問支援件数は887件であり、その内訳は表4-1のとおりである。

最も多い訪問先は、通所施設である。療育手帳再判定時に生活状況の確認を行うほか、通所利用の際の見学同行や支援者とのコーディネートを行っている。その他、行動上の難しさを抱えるケース等への対応に関する相談を受け、施設訪問を行っている。

その他、長期引きこもり、強度行動障害、大学生の就労、触法行為といった複雑困難な事例が多く、各々の事例に応じた関係機関との連携強化が重要な課題となっている。

(図4-3)継続相談の主訴別件数



(表4-1)訪問支援状況

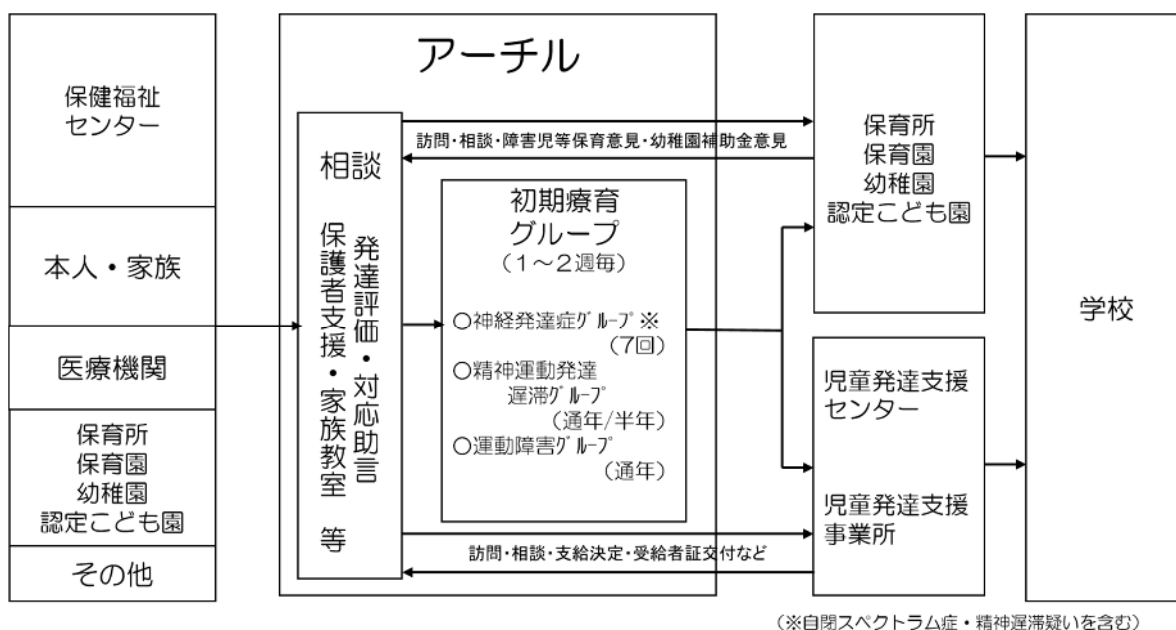
(単位:件)

家庭	通所施設	入所施設	医療機関	就労関係機関	相談機関	地域活動推進センター	保健福祉センター	学校関係	その他	計
131	483	105	30	36	35	14	22	6	25	887

3 就学前療育支援

図5-1は本市における就学前療育支援体系である。新規相談後、在宅の児童は、初期療育グループを経て、または相談から直接地域の生活の場（児童発達支援センター等）へ移行し、継続した相談支援及び療育を受けている。保育所・幼稚園・認定こども園に通所・通園を始めてからの相談も多く、また、各施設に在籍しながら児童発達支援事業所を併用する児も増加している。アーチルは各施設と連携しながら個別相談や施設支援を実施している。また保育士・幼稚園教諭の研修に対して講師の派遣なども行っている。

(図5-1)仙台市の就学前療育体系



(1) 初期療育グループ（乳幼児支援係）

初期療育グループは新規相談後、在宅の児童を中心に開始されるグループでの支援である。

アーチルでは、初期療育グループを相談の補完として位置づけており、保護者支援、児童支援の2つのプログラムで実施している。中でも保護者支援に重点を置き、同じ悩みを持つ保護者同士や先輩保護者との出会いの場を設け、保護者自身が子育ての方向性を見出せるように支援している。

<令和4年度の初期療育グループ実施状況>

初期療育グループは、表5-1のとおり児の障害特性ごとに構成し、神経発達症のグループは1クール概ね7回、その他は通年または半年で実施している。

令和4年度は224人の児と保護者が利用した。参加児童の年齢別内訳は表5-2、参加児童の障害別内訳は表5-3のとおりである。

また、初期療育グループ終了後の進路については表5-4のとおりである。

<活動内容>

時間帯：9時30分から11時30分

児童：児童の発達課題に合わせた遊びを中心に、個別と集団活動を生かした遊びによる療育支援を行っている。

保護者：グループワークや個別面接、先輩保護者との話し合いなどにより個別のニーズに合わせた支援を行っている。

スタッフ：保健師，保育士，心理判定員，理学療法士，作業療法士，言語聴覚士で構成している。

(表5-1)グループ構成

主な障害名	グループ数					療育期間	療育頻度
	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度		
神経発達症	40	50	35	42	37	概ね7回	毎週1回
ダウン症	1	1	/	/	/	/	/
精神運動発達遅滞	2	4	4	8 (ダウン症含)	6 (ダウン症含)	通年/半年	概ね月3回
脳性麻痺等の運動障害	2	3	2	1	3	通年/半年	概ね月3回
計	45	58	41	51	46	/	/

(表5-2)参加児童の年齢別内訳

(単位:人)

	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度
0歳児	16	16	3	11	9
1歳児	105	80	61	85	46
2歳児	178	147	107	149	160
3歳児	28	18	13	13	9
4歳児	0	1	0	0	0
5歳児	0	0	0	0	0
計	327	262	184	258	224

(表5-3)参加児童の障害別内訳(未診断の「疑い」含む)

(単位:人)

	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度
自閉スペクトラム症	161	92	79	127	118
知的発達症	44	42	28	51	44
精神運動発達遅滞	15	16	13	22	6
ダウン症	25	15	10	12	8
脳性麻痺	1	2	2	0	2
その他	37	26	12	13	25
保留	44	69	40	33	21
計	327	262	184	258	224

(表5-4)初期療育グループ終了後の進路

(単位:人)

児童発達支援センター (親子通園型)	児童発達支援センター (単独通園型)	保育所 (障害児)	保育所 (一般)	認可外保育施設	認定こども園 幼稚園・	在宅	グループ継続	転出等	計
151	0	8	3	2	25	28	3	4	224

(2) やまびこルーム

平成28年度まで市内に設置していた「やまびこホーム」閉鎖に伴い、南北アーチルでその機能を吸収し、発達相談との有機的な連携のもと、支援を継続している。「やまびこルーム」では言語及び聴覚に障害を持つ就学前の幼児に対し、聴覚言語療育支援を行い、言語・聴覚機能の発達を促す。個々の障害の程度や状況に合わせた支援を行い、子どもの発達の可能性を十分に引き出しながらコミュニケーション能力の向上を図っている。それと共に、子どもが所属する集団や保護者に対し、障害の特性が理解され適切な対応がなされるよう支援している。

令和4年度の利用児童の年齢・障害種別内訳については表5-5のとおりである。

(表5-5)やまびこルーム 利用児童の年齢・障害種別内訳 (令和5年3月31日現在) (単位:人)

	難聴	構音障害	吃音	言語発達	計
0歳児	0	0	0	0	0
1歳児	2	0	0	0	2
2歳児	0	0	0	0	0
3歳児	1	0	0	0	1
4歳児	7	3	0	0	10
5歳児	7	17	8	2	34
計	17	20	8	2	47

また、利用児童の保護者や在籍する保育所・幼稚園等の職員を対象に交流会および研修会を実施している。令和4年度は新型コロナウイルス感染症予防のため、保護者交流会や保育所・幼稚園等の職員を対象とした研修会は実施を見合わせ、必要に応じて所属先への個別訪問や、電話で対応の共有を行った(訪問1件・電話での共有5件)。

保護者交流会

※令和4年度は新型コロナウイルス感染症予防のため実施せず。

保育所・幼稚園等研修会

※令和4年度は新型コロナウイルス感染症予防のため実施せず。

(3) 児童発達支援センターとの連携

仙台市が指定する児童発達支援センターは11園ある。児童発達支援センターは、まずは児童の保護者がわが子の発達に不安を抱き、アーチルに相談した後で、身近な地域でかかわる最初の療育機関であり、保護者の子育て支援の場でもあるという、大切な役割を担っている。療育機能に加え、児童発達支援センターには子育て支援施設との連携による施設支援、相談支援等を含む地域支援機能も求められている。

アーチルでは障害児の児童発達支援センター利用のための相談・調整と支給決定を行っている。児童発達支援センターは、主に初期療育グループを終了した児童が通う「親子通園型」9園と、比較的重度の年中・年長児が中心の「単独通園型」の2園に大別される。親子通園型の施設でも一部単独通園が行われるなど、施設設立の経緯、地域の状況などによりそれぞれの園が特徴を持って療育に当たっている。増加しつつある医療的ケア児に対応するため、看護師の配置も段階的に進んでいる。

アーチルでは必要に応じてセンターを訪問し、入園した児童や家族の状況を確認し、今後の支援計画や就園、就学等の進路について話し合っている。

なお、市内には民間の児童発達支援事業所も増加しており、それらの事業所と児童発達支援センター、アーチルとの連携の強化も課題となっている。

児童発達支援センターに在籍している児童の年齢別内訳については、表5-6のとおりである。

(表5-6)児童発達支援センター在籍児童の年齢別内訳

(令和5年3月31日現在) (単位:人)

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	計
立町たんぽぽホーム	0	7	21	8	0	0	36
大野田たんぽぽホーム	0	1	17	20	2	0	40
田子西たんぽぽホーム	0	5	17	7	0	0	29
上飯田たんぽぽホーム	0	1	10	12	1	0	24
西花苑たんぽぽホーム	0	2	12	4	6	3	27
なのはなホーム	0	3	7	15	4	4	33
サンホーム	0	4	26	15	0	0	45
あおぞらホーム	0	1	11	9	0	0	21
袋原たんぽぽホーム	0	4	19	17	0	0	40
なかよし学園	0	0	0	0	16	19	35
なのはな園 (私立)	0	0	0	0	17	15	32
計	0	28	140	107	46	41	362

(4) 特別支援保育申請時の評価

特別支援保育は、公立保育所においては、対象となる児童3人に対し1人の保育士が加配される仕組みであり、私立保育所・認定こども園に対しては、それに相当する助成金が交付される。

アールでは、特別支援保育の申請のあった児童について、発達特性や必要な支援に関する、専門機関としての評価を行っている。

保育所(特別支援保育実施施設)で特別支援保育を受けている児童の年齢別内訳については、表5-7のとおりである。

(表5-7) 保育所(特別支援保育実施施設)で特別支援保育を受けている児童の年齢別内訳
(令和5年3月1日現在) (単位:人)

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	計
公立(33)	0	4	11	42	78	78	213
私立(100)	1	4	17	81	105	98	306
認定こども園(48)	0	2	10	36	47	44	139
地域型保育事業(9)	0	3	6				9
計(190)	1	13	44	159	230	220	667

※()は施設数

※地域型保育事業は、小規模保育事業・家庭的保育事業・事業所内保育事業

※特別支援保育の所管はこども若者局運営支援課

4 発達評価

(1) 心理評価

○相談状況（新規相談及び継続相談）

令和4年度に心理判定員が関わった心理評価相談総数は6,761件であり、ライフステージ別の件数は下表のとおりである。

乳幼児支援係	学齢児支援係	成人支援係	合計
2,080	3,593	1,088	6,761

(2) 運動評価

○相談状況（新規相談及び継続相談）

令和4年度に理学療法士・作業療法士が関わった運動評価相談総数は524件であり、ライフステージ別の件数は下表のとおりである。

乳幼児支援係	学齢児支援係	成人支援係	合計
390	100	34	524

○施設支援状況

理学療法士・作業療法士による施設支援を、施設30か所について38件行った。

児童発達支援センターや保育所については、療育全般と食事や姿勢運動の課題に関する支援が主で、ここ数年は感覚統合についての保護者勉強会講師としての依頼も増えている。生活介護事業所や障害者福祉センターについては、摂食・嚥下や姿勢管理に対する支援が多かった。

(3) 言語評価

○相談状況（新規及び継続相談）

令和4年度に言語聴覚士が関わった言語評価相談総数は413件であり、ライフステージ別の件数は下表のとおりである。

乳幼児支援係	学齢児支援係	成人支援係	合計
389	13	11	413

○訪問支援状況

令和4年度には、言語聴覚士による施設支援を施設16か所について28件行った。

5 医療相談・スーパーバイズ

(1) 医療相談

令和4年度の専門医（小児科・小児神経科・精神科・整形外科・耳鼻咽喉科・歯科）による診察件数は下表のとおりである。

(表6-1)医療相談 (単位:件)

乳幼児	学齢児	成人	計
123	236	78	437

(表6-2)情報共有 (単位:件)

乳幼児	学齢児	成人	計
99	332	29	460

(表6-3)評価会議 (単位:件)

乳幼児	学齢児	成人	計
416	635	10	1,061

※学齢児の評価会議はレビュー及びミニレビューにおいても実施されている。

(2) 保険診療（平成30年度より開始）

令和4年度の常勤の専門医（小児科）による診察件数は、下表のとおりである。

(表6-4)保険診療 (単位:件)

乳幼児	学齢児	成人	計
71	1,235	4	1,310

(3) スーパーバイズ

職員の専門的技術、知識の向上及び有効なケース処遇等を目的に、スーパーバイズを実施した。

(表6-5)スーパーバイズ実施状況

※役職名は令和4年度当時

スーパーバイザー名	実施回数	内 容
小坂 徹 氏 (郡山健康科学専門学校子ども未来学科長)	23回	○自閉症及び行動障害児者への支援に関する助言・指導 ・事例検討やケース会議 ・施設コンサルテーション
本田 秀夫 氏 (信州大学医学部子どものこころの発達医学教室教授 兼 附属病院子どものこころ診療部長)	1回	○発達障害児者の地域支援体制の充実へ向けた助言・指導 ・講義・情報交換
植木田 潤 氏 (宮城教育大学教職大学院教授)	3回	○発達障害児支援の充実へ向けた助言・指導 ・学校等関係機関への訪問支援について ・講義・事例検討
志賀 利一 氏 (社会福祉法人横浜やまびこの里理事 兼 横浜市発達障害者支援センター相談支援事業部長)	1回	○自閉症及び行動障害児者の支援体制に関する助言・指導 ・講義・情報交換

米倉 尚美 氏 (社会福祉法人みずきの郷 理事長)	8 回	○自閉症及び行動障害児者への支援に関する助言・指導 ・講義
------------------------------	-----	----------------------------------

6 療育手帳交付状況及び所持者数

(表7-1)療育手帳新規交付件数

(単位:件)

	令和4年度						
	青葉区	宮総	宮城野区	若林区	太白区	泉区	
A	53	9	7	7	8	14	8
B	441	83	36	94	44	100	84
計	494	92	43	101	52	114	92

(表7-2)療育手帳所持者数(令和5年3月31日現在)

(単位:人)

	令和4年度						
	青葉区	宮総	宮城野区	若林区	太白区	泉区	
A	3,509	637	260	676	378	827	731
B	6,624	1,229	417	1,367	759	1,631	1,221
計	10,133	1,866	677	2,043	1,137	2,458	1,952

(表7-3)年度別療育手帳所持者数(各年度末現在)

(単位:人)

	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
A	3,310	3,330	3,383	3,458	3,509
B	5,499	5,775	6,047	6,284	6,624
計	8,809	9,105	9,430	9,742	10,133

7 地域生活支援状況(所外相談および施設支援)

発達相談支援センターでは、所内での相談だけでなく、個別のニーズに基づき、家庭への訪問や保育所、幼稚園、学校、障害児通所支援事業所、成人施設及び保健福祉センター等に出向いた個別相談を実施している。実施数は、相談件数全体の12,668件の19.6%にあたる2,477件に上る。訪問先の内訳は、表8のとおりである。

また、近年では、施設や学校等からの発達障害全般に対する助言・指導等のニーズも増えてきており、施設や学校等の支援機能向上に資するため、障害児通所支援事業所、保育所、幼稚園、学校及び成人施設等に、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、心理判定員及び相談員等が訪問して施設支援を行っている。

(表8)訪問先 内訳

訪問先	相談支援件数（令和3年度）	相談支援件数（令和4年度）
家庭	234	243
保育所	77	74
幼稚園	29	22
学校	609	498
児童発達支援事業所・ 児童発達支援センター	442	658
障害児者通所施設	543	536
障害児者入所施設	237	200
就労先・就労関係機関	51	36
相談機関	68	77
保健福祉センター	55	22
医療機関	58	45
上記以外	65	66
計	2,468	2,477

8 児童福祉施設等入所状況

障害児の保護，障害児者の自立に必要な日常の生活指導及び，医療・教育等を行うことを目的に，入所施設に関する措置業務及び給付費支給の要否決定の業務を行っている。児童福祉法改正以降，18歳以上の入所者については，障害者総合支援法に基づくサービスの利用にかかる介護給付費支給の要否決定の業務を行っている。

入所については，保護者からの相談に基づき，障害児者の障害状況及び家庭状況等を調査し，施設利用の目的や入所中及び退所後の支援方針について，関係機関を含め協議した上で決定している。

また，業務の円滑化を図るため，県内児童相談所・施設等と定例で連絡会を開催している。

(表9) 児童福祉施設等入退所状況

(単位:人)

	種 別	施 設 名	定員	令和4年度		令和5年3月末
				入所	退所	現員数
県 内 施 設	福祉型障害児入所施設	宮城県啓佑学園	60	3	2	23
	医療型障害児入所施設 (旧肢体)	宮城県立拓桃園	81	50	50	11
	医療型障害児入所施設 (旧重心) 障害福祉サービス事業所 (療養介護)	仙台エコー医療療育 センター	110	0	2	45
	指定医療機関 (重症心身障害児委託病床・療養介護)	宮城病院	120	3	2	28
		仙台西多賀病院	80	3	0	30
県 外 施 設	福祉型障害児入所施設	阿桜園	115	0	0	1
		若竹学園	30	0	0	1
		東洋学園児童部	40	0	0	5
		横浜訓盲院	50	0	0	1
		たばしね学園	50	0	0	1
	指定医療機関 (重症心身障害児委託病床・療養介護)	岩手病院	120	0	0	5
		花巻病院	60	0	0	2
		米沢病院	120	0	0	0
		西新潟中央病院	120	0	0	1
	障害福祉サービス事業所 (療養介護)	にこにこハウス医療 福祉センター	83	0	0	1
県内施設合計				59	56	137
県外施設合計				0	0	18
合 計				59	56	155

Ⅲ 市民啓発・ネットワーク形成

「発達障害児者と家族にとって住みやすい地域になること」を目的に、市民啓発の各種事業と、市民・関係機関とのネットワーク形成のための会議等を実施している。

1 市民啓発

(1) 各種研修会・セミナー等の開催

発達障害児者とその家族が生涯にわたり「一貫した支援」を受けられるような体制づくりを市民と共に考えていくため、市民向けや関係機関職員向けの研修会等を毎年実施している。令和4年度は、前年度に引き続きオンラインやオンデマンド配信で実施した研修もあったが、感染対策をした上で集合研修実施も再開した。

①市民対象講演会（アーチル療育セミナー）

日時・場所 参加者数	テ ー マ ・ 講 師
令和5年3月8日 太白区文化センター(楽楽楽ホール) 322名	「発達障害のある子の将来を見据えた支援～成人期からふりかえる～」 ・第一部 講話：「発達障害のある子の将来を見据えた支援」 講師：NPO 法人ネストジャパン/NPO 法人パルレ 植田みおり氏 ・第二部 シンポジウム 「発達障害のある方たちが必要とする体験の機会を作っていくために、私たちができること」 コーディネーター：尚絅学院大学講師 佐々木健太郎氏 シンポジスト： 仙台城南高等学校スクールカウンセラー 上西創氏 仙台市自閉症児者相談センター主任相談員 西田有吾氏 コメンテーター：植田みおり氏

②発達障害基礎講座（共通編）

日時・場所 参加者数	テ ー マ ・ 講 師
令和4年 9月15日～3月31日 オンデマンド配信 再生回数： 第一部 1,893回 第二部 1,181回	・第一部 「発達障害児者支援の基本的な考え方～家族を支える～」 ① 「家族を支える」 ② 「診断後の保護者を支える」 ③ 「幼児期の家族支援」 講師：北部・南部発達相談支援センター主幹（小児科医）奈良 千恵子 ・第二部 「アーチルの役割と本人が地域で暮らすための連携・協働した支援について」 ① 「アーチルの概要と支援の考え方」 ② 「アーチル相談の現状と課題」 ③ 「地域で暮らすための支援～連携・協働～」 講師：南部発達相談支援センター 所長 大石 葉子

③発達障害基礎講座（乳幼児期編）

日時・場所 参加者数	テーマ・講師
<p>令和4年</p> <p>① 6月16日 オンワード樫山仙台ビル10階 58名</p> <p>② 6月30日 障害者総合支援センター 2階 研修室I 63名</p> <p>③ 9月1日 オンワード樫山仙台ビル10階 67名</p> <p>④ 9月8日 オンワード樫山仙台ビル10階 48名</p>	<p>アーチル・運営支援課合同基礎研修</p> <p>「アーチルの役割について」</p> <p>① 南部発達相談支援センター 主幹 伊藤 恵子</p> <p>② 北部発達相談支援センター 乳幼児支援係長 畠山 美加</p> <p>「発達障害の理解と対応」</p> <p>①②北部・南部発達相談支援センター 主幹（小児科医） 奈良 千恵子</p> <p>アーチル・運営支援課合同基礎研修</p> <p>「就学前の療育体系と子どもの特性に合わせた支援について」</p> <p>③ 北部発達相談支援センター 乳幼児支援係 主査 佐藤 奈美代</p> <p>④ 南部発達相談支援センター 乳幼児支援係 主査 岩井 美恵</p> <p>「事例発表～保育施設における特別支援保育について～」</p> <p>発表園</p> <p>③ 幼保連携型認定こども園ろりぽっぷ泉中央南園</p> <p>③ 仙台市長命ヶ丘保育所</p> <p>④ 幼保連携型認定こども園河原町すいせんこども園</p> <p>④ 仙台市人來田保育所</p>

④発達障害成人期講座

日時・場所 参加者数	テ ー マ ・ 講 師
令和4年 10月13日 オンライン 12名	<p>【生活介護編】 テーマ：障害者福祉センターにおける生活介護事業 講師：北部・南部発達相談支援センター スーパーバイザー 小坂 徹 氏 実践報告：仙台市宮城野障害者福祉センター生活介護事業 サービス管理責任者 泉 俊成 氏</p>
令和5年 1月27日 南部発達相談支援 センター大会議室 (オンライン併用) 47名	<p>【就労編】 テーマ：発達障害および発達特性のある学生等の支援 ～在学中から就労に向けたネットワーク構築へ～ 講師：札幌市自閉症・発達障がい支援センターおがる 所長 西尾 大輔 氏 実践報告：東北大学高度教養教育学生支援機構 特任講師 鈴木 大輔 氏 地域活動推進センターここねっとデイ 施設長 納谷 直子 氏</p>
令和5年 2月16日 南部発達相談支援 センター大会議室 47名	<p>【生活介護編】 テーマ：行動上の難しさがある人の支援 ～本人の行動の背景を多面的に考える～ 講師：北部・南部発達相談支援センター スーパーバイザー 小坂 徹 氏 実践報告：仙台市宮城野障害者福祉センター生活介護事業 サービス管理責任者 泉 俊成 氏</p>

⑤ アーチル夏の研修会（教職員向け）

日時・場所 参加者数	テ ー マ ・ 講 師
令和4年 7月21日 ～8月26日 オンデマンド配信 計118校1,116名 小:85校774名 中:28校204名 高:2校93名 他:3校45名	<p>仙台市立小・中・高等学校，特別支援学校の教職員対象 「アーチル夏の研修」</p> <p>講座①：発達特性のある子どもたちへの「学級への対応」 ～子供たちの困り感を理解し，夏休み明けに備える～ 講師：北部・南部発達相談支援センター 主幹(小児科医) 奈良 千恵子</p> <p>講座②：一人ひとりに応じた支援とは ～子どもをよく知り みんなで支える学級づくり～ 講師：宮城学院女子大学 教授 梅田 真理 氏</p>

⑥ アーチル発達障害特別講座

日時・場所 参加者数	テーマ・講師
令和4年10月16日 宮城県庁2階講堂 44名 (うち仙台市22名)	「宮城県・仙台市 医療的ケア児等コーディネーターフォローアップ研修」 講師:淑徳大学 看護栄養学部 助教 谷口 由紀子 氏

⑦ 宮城県・仙台市かかりつけ医等発達障害対応力向上研修

日時・場所 参加者数	テーマ・講師
令和4年12月11日 東北大学病院より リモート配信 11名	司会:北部・南部発達相談支援センター 主幹(小児科医) 久保田 由紀 ・「症例検討」 講師:東北大学病院小児科 植松 有里佳 氏 ・「発達障害における課題と支援～アタッチメント, ASD, ADHD～」 講師:宮城県発達障害者支援センター 技術次長 佐藤 寛記 氏

⑧ 行動障害研修（仙台市第二自閉症児者相談センター「なないろ」との共催）

日時・場所 参加者数	テーマ・講師
令和4年10月18日 ～令和5年3月7日 のべ12回・122名	放課後等デイサービス事業所訪問（基礎講話・事例検討）
令和4年5月7日 ～令和5年3月16日 のべ6回・37名	新規生活介護事業所訪問（研修）
令和4年3月25日～ オンデマンド配信中	アーチル発達障害専門講座（自閉症・行動障害編） 「行動障害の対応と配慮点～ご本人の視点で～」 講師：社会福祉法人みずきの郷 仙台市第二自閉症児者相談センター なないろ センター長 門田 優子 氏

⑨ アーチル 20 周年記念研修会

日時・場所 参加者数	テーマ・講師
令和4年11月29日 日立システムズホール 仙台 280名	「発達障害児者支援のこれからを考える」 講師：信州大学医学部子どものこころの発達医学教室 教授 信州大学医学部附属病院子どものこころ診療部 部長 本田 秀夫 氏 シンポジスト：乳幼児期の支援者/学齢児期の支援者/保護者の方/ 当事者の方

(2) 広報紙の発行

発達相談支援センターのコンセプトを利用者や関係機関に発信するため、アーチルニュース「ちえなっぷ」第36号を発行した（巻末資料参照）。

(3) 発達障害児者支援総合情報提供冊子の活用

障害のある子ども、発達に不安のある子どもを抱え育てに悩みを抱えている保護者を対象として、子育て・教育・福祉に関する相談窓口の他、障害に関する支援事業などに関する情報提供することを目的に作成した『お子さんの発達が気になったら～つながるためのヒント～』を活用して情報提供を行っている。

(4) 各種情報の提供

ちらし、ホームページ等で事業概要や研修会等の情報提供を行った。

また、研修会や保護者・親の会等の案内の配布や、発達障害関連の図書の貸出しを行った。

さらに、発達障害への正しい知識と理解の促進を図るため、発達障害理解促進啓発冊子による情報提供も行った。

2 ネットワーク形成

(1) 家族教室等

障害児者の家族が情報交換や家族同士のネットワークづくりを図ること等を目的に、家族会等への支援・育成を行った。各ライフステージの状況は以下のとおりである。

① 幼児期（家族教室）

保育所・幼稚園入園後に集団での指摘や発達への心配があり、初めてアーチルに来所するケースが増加している。こうした保護者の多くは、これまでに療育の機会がなかったことから、発達障害に関する知識や、同じ立場にある保護者同士のつながりが乏しく孤立しており、十分なサポートが得られていないことが課題である。

令和4年度、北部発達相談支援センターにおいては、「家族教室」を8回実施した。内容は、保護者のニーズに合わせて、発達障害当事者の体験談を聞く回や、フリートークの回を設けた。また、講話終了後にも、毎回のテーマに沿って、保護者同士のやり取りの時間を設けている。各回の実施日と参加人数は、以下のとおりである。また、南部発達相談支援センターにおいては、概ね月に1回、計8回「家族教室」を実施した。

参加した保護者からは、「他の保護者の話を聞いて、悩んでいるのは自分だけではないと励まされた」「子どもに穏やかに関わることができるようになった」「就学や将来的な見通しが持ててよかった」などの声が聞かれた。

家族教室（北部発達相談支援センター）

回	実施日	内容	参加人数
1	5月23日	発達障害のおはなし	6
2	6月20日	先輩保護者の体験談	7
3	7月4日	フリートーク	3
4	8月29日	感覚統合のおはなし	3
5	9月26日	発達障害のおはなし	10
6	10月24日	小学校の生活と大切にしたいこと	17
7	11月21日	フリートーク	4
8	1月27日	当事者の体験談	7
参加延べ人数（参加実人数）			57(26)

家族教室（南部発達相談支援センター）

回	実施日	テーマ・内容	参加人数
1	6月14日	小学校に向けておうちでできること	7
2	7月5日	「小学校ってどんなところ？」	3
3	9月8日	先輩保護者からのお話①	7
4	10月25日	発達のつまづきについてのお話	7
5	11月17日	発達障害をもつ大人に聞いてみよう	7
6	12月13日	小学校に向けて困らないための体の育て方	6
7	1月12日	たくさんほめて育てよう	3
8	2月7日	先輩保護者からのお話②	5
参加延べ人数（参加実人数）			45(19)

・「まるん」「どんぐりころころ」

先輩保護者から「自分たちのできることをしたい」「自分の体験談が活かされるならば」という声があがり、平成17年11月に母親支援を目的とする当事者による活動「まるん」が立ち上がった。また、南部発達相談支援センターの開所に伴い、平成24年11月には南部地域を対象とする「どんぐりころころ」も活動を開始した。「まるん」「どんぐりころころ」のいずれも、母親の立場で話を聴き合うことを大切にし、活動を実施している。

利用者からは「自分の気持ちを分かってもらえた」「子どもの将来の姿もイメージすることができた」などの意見が寄せられ、保護者の精神的負担の軽減につながっている。「まるん」の運営に関しては、発達相談支援センター職員が、まるんメンバーと利用者とのコーディネートを行い、その後の振り返りも一緒に行っている。「まるん」では、これまでの活動の蓄積をアーチルにおける保護者支援事業に生かす方法を話し合ってきた。その一環として、まるんメンバーが先輩保護者の集いや、特別支援学校や児童発達支援センターの研修会などで、講話をする機会を設けてきた。このような活動を通して職員も学ぶことができ、より保護者の思いに沿った支援を行うことにつながっている。

② 学齢期（家族教室）

おもに学齢時期に発達障害（疑い）と判断された通常学級に在籍する児童の保護者を対象に開催している。

平成26年度からモデル事業、28年度から本事業として実施し、令和2年度からは「仙台市自閉症児者相談センターここねっと」に事業委託を開始。NPO法人と行政それぞれのノウハウや支援実績を共有し、内容のより一層の充実に努めている。

令和4年度は、新型コロナウイルス感染症対策に十分配慮したうえで、各回、講師からの話を聞くだけでなく、講話を踏まえた保護者同士が意見交換できる時間を可能な範囲で設けた。

参加者アンケートからは、発達特性や対応の仕方を学ぶことができ参考になった、保護者同士の出会いや交流から孤立感や不安が緩和されたという意見が多く寄せられている。

回	実施日	内容	参加人数
1	7月15日	子どもへの理解を深めよう (講師：先輩保護者)	9
2	9月6日	発達障害について学ぼう (講師：アーチル常勤医)	17
3	10月21日	学校って？先生とのコミュニケーションのすすめ (講師：小学校校長)	19
4	11月18日	子どもへの関わり方を学ぼう (講師：ここねっと相談員，アーチル相談員)	21
5	12月16日	子どもはどう思っている？ (講師：成人当事者)	20
6	1月20日	将来について学ぼう (講師：ここねっと，アーチル相談員)	17
参加延べ人数			103

企画・運営：仙台市自閉症児者相談センター ここねっと

開催場所：仙台市福祉プラザ 研修室，大広間

③ 成人期（家族教室・家族サロン）

主に知的障害のない自閉スペクトラム症など発達障害者の家族を対象に「家族教室」「家族交流サロン」の2つの集団プログラムを実施した。

家族教室では、発達障害に関する知識や福祉制度の活用などを学ぶことを目的にした講話や、同じ立場にある家族同士の懇談を実施した。家族サロンは、前年度までの家族教室参加者を対象に、家族同士の交流を中心としたグループワークを行った。参加者からは、「同じ境遇の親御さんとの交流が、一番の収穫だった」「本人の気持ちや、接し方を学べた」「親亡き後や自立について考えることができた」といった感想が寄せられた。また、家族教室と交流サロン合同企画により、発達障害当事者からの体験談を聞く機会をつくった。

・家族教室

回	実施日	テーマ・内容	参加人数
1	5月25日	家族教室について	5
2	6月24日	発達障害について①	6
3	7月27日	社会資源・福祉制度について	6
4	8月31日	自立・生活について①	5
5	9月28日	家族交流サロンとの合同企画： 自立・生活について②	3
6	10月28日	発達障害について②	6
7	11月30日	就労前支援，就労支援について	6
8	12月21日	家族交流サロンとの合同企画： 家族サロン保護者との懇談会	8
9	1月25日	家族交流サロンとの合同企画：成人当事者の話	5
10	2月24日	ふりかえり・まとめ	3
参加延べ人数			53

・家族サロン

回	実施日	内容	参加人数
1	5月25日	オリエンテーション（発達障害）	12
2	6月24日	グループトーク	12
3	7月27日	「はたらく」～働き方の選択肢～	11
4	8月31日	「くらす①」～グループホーム見学～	7
5	9月28日	家族教室との合同企画： 「くらす②」～暮らしとお金～	13
6	10月28日	グループトーク	8
7	11月30日	「たのしむ」～余暇の充実～	6
8	12月21日	家族教室との合同企画： 講話①～家族からのメッセージ～	9
9	1月25日	家族教室との合同企画： 講話②～本人からのメッセージ～	10
10	2月24日	グループトーク	9
11	3月14日	まとめ	4
参加延べ人数			101

④ 重症心身障害児者

・ 家族会

北部家族会「ココリスの会」は新型コロナウイルス感染症の影響があり大規模な活動はなかったが、親同士の集まりの場を1回持った。南部家族会「ちょこちゃ」は新型コロナウイルス感染症の影響もあり、会としては実施されなかった。

(2) おもちゃ作成ボランティア

市民ボランティア3～5名で、初期療育グループ等で使用する乳幼児向けのおもちゃづくりを行った。毎月2回（南北発達相談支援センター各1回ずつ）活動している。

(3) 関係機関ネットワーク会議

関係機関との連携・ネットワークづくりを深めるため、各種会議に参加した。

会議等	回数	構成メンバー
障害児通園施設連絡協議会	3回	立町たんぽぽホーム、大野田たんぽぽホーム、田子西たんぽぽホーム、上飯田たんぽぽホーム、西花苑たんぽぽホーム、袋原たんぽぽホーム、なのはなホーム、あおぞらホーム、サンホーム、なのはな園、なかよし学園、市障害者支援課
区障害者自立支援協議会	84回	相談支援事業所、通所施設、居宅サービス事業所、各区障害高齢課等
措置担当者会議	3回	県中央児童相談所、県北部児童相談所、県東部児童相談所、県東部児童相談所気仙沼支所、県子ども家庭支援課、県障害福祉課、市児童相談所
福祉型障害児入所施設業務連絡会	1回	啓佑学園、県中央児童相談所、県北部児童相談所、県東部児童相談所、県東部児童相談所気仙沼支所、県障害福祉課、市障害者支援課
医療型障害児入所施設業務連絡会	1回	エコー療育園、仙台西多賀病院、宮城病院、宮城県立こども病院・宮城県立拓桃園、県中央児童相談所、県北部児童相談所、県東部児童相談所、県東部児童相談所気仙沼支所、県障害福祉課、市障害者支援課
市児童相談所との連携連絡会	3回	市児童相談所
特別支援教育と発達障害児支援に関する連絡調整会議	全体会 2回 担当者会 2回	教育局特別支援教育課 (鶴谷特別支援学校、教育センター、適応指導センター、高校教育課、子供未来局児童クラブ事業推進課がオブザーバーとして参加)
青少年対策六機関合同会議	全体会 3回 担当者会 5回	教育相談課生徒指導班・教育相談班、適応指導センター、市児童相談所、子供相談支援センター、特別支援教育課 ※新型コロナウイルス感染症拡大により全体会は書面開催。
ひきこもり支援連絡協議会	10回	ひきこもり地域支援センター、仙台市生活自立・仕事相談センター、市障害者支援課、市児童相談所、市子供相談支援センター、市精神保健福祉総合センター、市適応指導センター、障害者基幹相談支援センター、地域活動推進センターここねっとデイ、医療機関、相談支援事業所、居宅介護支援事業所
保健福祉センター 心理判定員業務連絡会	3回	各区保健福祉センター
児童発達支援センター コーディネーター連絡会	11回	立町たんぽぽホーム、大野田たんぽぽホーム、田子西たんぽぽホーム、上飯田たんぽぽホーム、西花苑たんぽぽホーム、袋原たんぽぽホーム、なのはなホーム、あおぞらホーム、サンホーム、なのはな園、なかよし学園
地域活動推進センター連絡会議	2回	ここねっとデイ、ほっとスペース歩°歩°、アクティブ・デイ、仙台市自閉症児者相談センター
仙台市障害者施策推進協議会	10回	市特別支援教育課、市精神保健福祉団体連絡協議会、仙台弁護士会、仙台市医師会、仙台歯科医師会、宮城県自閉症協会、仙台公共職業安定所、仙台市視覚障害者福祉協会、仙台市障害者スポーツ協会、宮城県患者・家族団体連絡協議会、東北大学、東北福祉大学、東北こども福祉専門学院、社会福祉法人等
知的障害者生活介護事業者等 利用調整会議	7回	市障害者支援課、各区障害高齢課、特別支援学校、生活介護事業所

<p>宮城県障害者自立支援協議会こども部会（難聴児療育支援検討会）</p>	<p>2回</p>	<p>東北福祉大学，東北大学大学院，東北大学病院，宮城県難聴児を持つ親の会，宮城県立聴覚支援学校，県特別支援教育課，県子ども・家庭支援課，県障害福祉課，市子供家庭保健課</p>
---------------------------------------	-----------	--

3 発達障害児者支援体制整備

(1) 地域生活支援事業

発達相談支援センターでは、現行の障害福祉サービス等での支援が難しい発達障害児者と家族が地域で安心して生活できるシステムの構築を目的とする「地域生活支援事業」について、地域で生活する発達障害児者と家族のニーズを踏まえ、実情に応じた柔軟かつ効率的、効果的な事業の実施に取り組んできた。

① サポートファイル「アイル」

「アイル」は乳幼児期から成人期までの継続した支援を可能とするために、個人の発達状況や生活状況を綴ったファイルである。「親が持っている情報を最大限に役立てたい」、「自分の意思で自分の人生を自分らしく生きたい」という願いを持つ保護者が実行委員会を立ち上げ、検討を重ねた結果、平成 17 年 3 月にサポートファイル「アイル」が作成された。平成 25 年度には、学齢期以降も教育委員会と連携して検討し、広く普及・活用できるものに内容を変更した。また、平成 26 年度からは、就学相談の際にも積極的に紹介してきた。

令和 4 年度は、乳幼児の新規相談及び初期療育グループから児童発達支援センター等に通うことになった方を中心に 280 人（北部 175 人，南部 105 人）が作成した。

サポートファイル「アイル」の作成件数の推移

(単位:件)

年度	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度
作成件数	375	239	300	280

② 自閉症児者相談センター（委託）

平成 16 年度の「自閉症・発達障害支援センター連絡協議会（現：発達障害者支援地域協議会）」からの提言（「仙台市における自閉症地域生活支援システム整備のあり方について」）を受けて、継続的かつ頻回な支援が必要な在宅の自閉症などの発達障害児者を対象に、より生活に密着した支援を行う地域の相談支援機関として、自閉症児者相談センター（ここねっと）を平成 18 年度に開設した（受託法人：NPO 法人「自閉症ピアリンクセンターここねっと」）。平成 19 年度には若林障害者福祉センター内に移転し、全市域を対象に活動を行っている。

また、平成 24 年度からは特に行動障害がある自閉症児者の地域生活支援を行うため、北部アール内に第二自閉症児者相談センター（なないろ）を設置した（受託法人：社会福祉法人「みずきの郷」）。

自閉症児者相談センター（ここねっと）の相談実人数および延件数の推移

(単位:件)

年度	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26
実人数	124	131	190	180	136	152	168	226
延件数	1,321	1,959	2,228	2,345	1,487	2,286	2,208	3,037

年度	H27	H28	H29	H30	R 1	R 2	R 3	R 4
実人数	226	297	300	434	488	446	430	430
延件数	3,026	3,149	3,590	4,310	5,058	4,571	4,547	4,453

第二自閉症児者相談センター(なないろ)の相談実人数および延件数の推移

(単位:件)

年度	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R 1	R 2	R 3	R 4
実人数	65	71	93	118	140	135	145	118	122	121
延件数	539	941	1,143	1,785	1,869	2,401	2,693	2,109	2,129	2,716

③ 地域活動推進センター（助成）

高校や専門学校、大学を卒業又は中退後、就職や職場定着が難しく、家庭以外に居場所のない発達障害者を対象に、通所による余暇活動や就労準備支援等を行いながら、社会参加・就労への意欲を高める（回復する）ことを目的に支援している。現在、市内3カ所のセンターで、各法人の特徴を活かしたプログラムを実施しており、それに対し仙台市では運営費補助を行っている。

（実施法人）

- 1 NPO法人グループゆう「ほっとスペース歩° 歩°」（泉区）（平成18年10月～）
- 2 NPO法人自閉症ピアリンクセンターここねっと「ここねっとデイ」（若林区）
（平成19年1月～）
- 3 NPO法人アクティブ「アクティブ・デイ」（宮城野区）（平成20年1月～）

地域活動推進センター連絡会

回	開催日・場所	内容
1	令和4年9月27日 オンライン開催	(1) 発達相談支援センター及び自閉症児者相談センターの相談傾向について (2) 地域活動推進センターの現状と今年度の取り組みについて (3) 意見交換 ・プログラムの見える化について ・三地活協働企画について
2	令和5年3月3日 オンライン開催	(1) 地域活動推進センターと外部環境の変化及び利用者のニーズに対応したプログラムの提供の重要性について (2) 地域活動推進センターの今年度の主な取り組みについて (3) 三地活協働企画の実施報告について (4) 意見交換 ・プログラムの見える化について ・大学生の支援について

④ 自立支援事業

本事業は、学齢期の発達障害児を対象に、行動障害や二次障害の深刻化を防止するとともに、関係機関による支援ネットワークを構築し、本人・家族が安心して地域生活を送ることができるよう、障害者支援施設（社会福祉法人みずきの郷ひかり苑）で宿泊を伴う一定期間のプログラム提供を行うモデル事業として平成19年度に開始した。

平成24年度に本事業化しており、今後も引き続き、本人・家族への支援と支援者間のネットワーク強化、さらには支援者の人材育成を図っていくことが課題である。

(2) 発達障害者支援地域協議会

協議会の概要

平成 28 年 8 月に発達障害者支援法が改正されたことに伴い、都道府県・政令市が広く発達障害者の体制整備も含めた検討を行う場として発達障害者支援地域協議会（以下「協議会」とする）を設置できることとなり、本市でも平成 30 年より協議会を設置し、発達障害者支援体制整備に関する情報共有及び検討を行うとともに、関係機関の連携の緊密化を図っている。

令和 3 年度からは新たに「成人期の自立に向けて必要な支援とネットワークについて」をテーマとして作業部会を設置し議論を進めている中で、発達障害児者が地域の中で自立して暮らす力を身に着けるために「くらす」「はたらく」「たのしむ」の 3 つが重要な観点と示され、「支援の垣根を越え、本人に必要な体験の機会を皆で協力して作ること」の大切さが共有された。

①発達障害者支援地域協議会

開催月	協議事項
令和 4 年 5 月	令和 4 年度 第 1 回協議会 ・発達障害児者支援の現状の共有 ・作業部会の中間報告 ・意見交換

②発達障害者支援地域協議会作業部会

テーマ：「成人期の自立に向けて必要な支援とネットワークについて」

開催月	協議事項
令和 4 年 9 月	情報交換会（見学会含む） ・各委員の実践報告，見学，意見交換
令和 4 年 11 月	第 3 回作業部会 ・情報交換会（見学会）の実施報告 ・意見交換「『自立に向けて体験する場』のあり方や関わり」「ネットワーク構築に向けた具体的な取り組み」について
令和 5 年 2 月	第 4 回作業部会 ・先進地視察報告（東京都世田谷区受託事業『みつけばハウス』，東京都品川区発達障害思春期サポート事業『ら・るーと』） ・「成人期若年層の発達障害児者に関するアーチルの取り組み」報告 ・意見交換「成人期を見据えて『くらす』力を育むために必要なこと」「『はたらく』につながる前の方への支援のあり方，『はたらく』を維持するうえで大切な視点」について

(3) 仙台市医療的ケア児（者）支援体制整備事業

①令和4年度 仙台市医療的ケア児者等地域支援連絡会

1) 概要

「医療的ケア児等総合支援事業の実施について」（平成31年3月27日付障発0327第19号厚生労働省社会・援護局障害保健福祉部長通知）及び仙台市医療的ケア児者等地域支援連絡会設置要綱（平成30年7月9日市長決裁）に基づき、人工呼吸器を装着している障害児者、その他の日常生活を営むために医療を要する状態にある障害児者や重症心身障害児者等（以下、「医療的ケア児者等」という。）への支援体制に関する課題について情報を共有し、関係機関の連携の緊密化を図っている。現状把握・分析、連絡調整、支援内容の協議等、地域全体の医療的ケア児等の支援に関する課題と対応策の検討等を行うことを目的としている。令和4年度には作業部会を設置し、災害時への備えをテーマに、医療的ケア児者等の住みよい暮らしのためのツールづくりについて検討を重ねている。

2) 日程・内容

ア) 仙台市医療的ケア児者等地域支援連絡会

開催日時	内容
令和4年8月2日 18:45～20:45	・医療的ケア児者等支援に関する現状と課題について ・コロナ禍における活動状況や工夫についての情報共有 ・作業部会の設置等について

イ) 仙台市医療的ケア児者等地域支援連絡会作業部会

開催日時	内容
令和4年10月25日 18:00～20:00	第1回作業部会 ・作業部会の設置について ・作業部会での検討内容について
令和5年2月27日 18:00～20:00	第2回作業部会 ・災害の体験談の聞き取りについて ・災害の備えに必要な情報について

②令和4年度 宮城県・仙台市 医療的ケア児等支援者養成研修・医療的ケア児等コーディネーター養成研修

1) 目的

医療的ケア児等が地域で安心して暮らしていけるよう、医療的ケア児等に対する支援が適切に行える人材を養成することを目的とする。

2) 日程・参加者

日程 令和4年12月2日・12月3日・令和4年12月17日・12月18日

*前2日間は支援者養成研修、全4日間はコーディネーター養成研修

ア) 支援者養成研修 99人（うち仙台市74人）

イ) コーディネーター養成研修 29人（うち仙台市23人）

③令和4年度 宮城県 医療的ケア児等コーディネーター養成研修修了者フォローアップ研修

*アーチル発達障害特別講座を参照（28ページ）

④医療的ケア児等コーディネーター情報交換会

1) 目的

市内における医療的ケア児等コーディネーターの活動状況や活動上の課題等について情報を共有し、活動の視点を深める。また必要時、活動に必要なと思われる情報を提供し、質の高いコーディネートができるよう環境を整える。

2) 日程・参加者

令和5年1月23日 10:00～12:00

参加者 15名

⑤医療的ケア対応型グループホーム運営費補助

<概要>

医療的ケアを必要とする重症心身障害者の地域における自立した生活を支援するため、必要な医療的ケア・介護等の支援を提供できる体制を確保し、受け入れた医療的ケアを必要とする重症心身障害者が共同生活を行う住居（グループホーム）を運営する事業者に対し、運営費補助を行った。

<補助内容>

基本 ①常勤看護師の配置

②医療的ケアに対応可能な支援員の人材準備

③グループホームの生活に向けた本人・家族への移行支援

<対象施設> 2か所

※重症心身障害児者数の推移

重症心身障害児者数の推移は表10のとおりである。在宅での医療的ケアのある重症心身障害児者数に増加傾向がみられる。

(表10)重症心身障害児者数（各年度末時点）

(単位:人)

		平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
在宅	医療的ケアあり	178	167	173	182	193
	医療的ケアなし	309	318	309	302	294
	小計	487	485	482	484	487
施設	医療的ケアあり	45	52	50	54	46
	医療的ケアなし	92	90	98	96	83
	小計	137	142	148	150	129
合計		624	627	630	634	616

※対象者数は、当センターの相談ケースであり、大島分類1～9に該当する児者数である。

(4) 発達障害児緊急対応事業

発達障害によるパニックや行動障害等による問題行動により、緊急的に家庭から本人を保護する必要のある場合、児童相談所の一時保護所の利用も困難な事案に対し、年間を通じて委託一時保護先のベッドを確保する事業を実施している。(平成 28 年度からモデル事業として開始し、令和元年度から本格実施)

(表 11) 発達障害児緊急対応事業実施状況

	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度
受入態勢確保日数	321 日	320 日	341 日
一時保護人数	10 人	9 人	17 人
延べ一時保護受入日数	250 日	237 日	579 日

4 講師派遣状況

	月日	研修会名	主催者名	会場
1	4月13日	新任校長研修	教育センター	教育センター
2	4月24日	四季会研修会	仙台市小児科医会有志	オンライン
3	5月18日	特別支援教育コーディネーター 連絡協議会	特別支援教育課	オンライン
4	5月23日	保育園職員研修	ろりぼっぷ泉中央南園	ろりぼっぷ泉中央南園
5	5月24日	宮城大学看護学科 「地域看護援助論」	宮城大学	宮城大学
6	6月14日	いじめ対策推進室 S-KET 相談員研修	いじめ対策推進室	南部アーチル
7	6月17日	国及び地方公共団体等向け障害 者職業生活相談員資格認定講習	宮城労働局職業安定部職業対 策課	仙台第4合同庁舎
8	6月24日	児童館特別支援コーディネーター 養成研修	児童クラブ事業推進課	太白区中央市民センター
9	6月29日	インクルーシブ教育システム研 修	教育センター	教育センター
10	7月8日	いじめ対策推進室 S-KET 相談員研修	いじめ対策推進室	南部発達相談支援センター
11	7月8日	国及び地方公共団体等向け障害 者職業生活相談員資格認定講習	宮城労働局職業安定部職業対 策課	仙台第4合同庁舎
12	7月24日	日本子ども虐待医学会シンポジ ウム	一般社団法人日本子ども虐待 医学会	国際センター
13	7月25日	仙台市障害理解サポーター養成 研修事業 第2回新規講師養成研 修	障害企画課	福祉プラザ
14	7月28日	特別支援教育コーディネーター 養成研修会	特別支援教育課	教育センター
15	7月28日	宮私幼・仙私幼共催研修会	宮城県私立幼稚園連合会 仙台市私立幼稚園連合会	旭ヶ丘市民センター
16	7月29日	宮城県特別支援教育研究会 「第67回夏季研修会」	宮城県特別支援教育研究会	宮城教育大学附属特別支援学 校
17	8月18日	障害者職業生活相談員資格認定 講習	独立行政法人高齢・障害・求職 者雇用支援機構	ポリテクセンター宮城
18	8月30日	特別支援教育コーディネーター 向上研修会	教育センター	教育センター
19	8月31日	仙台市小児科医会共催講演会	仙台市小児科医会他（共催）	オンライン
20	9月9日	青葉・宮城野・泉区ブロック所長 会研修	公立保育所所長会	上杉分庁舎7階第一会議室
21	9月13日	仙台市保育所連合会主任保育士 会研修	仙台市保育所連合会	オンワード樫山ビル10階会議 室
22	9月16日	なのはな園保護者研修会「言葉の 育ち」	なのはな園	なのはな園
23	9月21日	仙台市公立保育所栄養士部会全 体会	子供未来局運営支援課	仙台市役所2階
24	9月29日	なのはなホーム保護者研修会 「言葉の育ちについて」	仙台市なのはなホーム	仙台市なのはなホーム
25	10月20日	藤沢市市民向け講座	藤沢市子ども家庭課	オンライン
26	10月21日	のびすく仙台子育てコーディネ ーター研修	子供未来局総務課	北部発達相談支援センター
27	10月21日	宮城野区民生委員児童委員協議 会研修	仙台市宮城野区民生委員児童 委員協議会	ホテル ニュー水戸屋

28	10月25日	田子西たんぼぼホーム保護者研修会「体の動きと感覚について」	仙台市田子西たんぼぼホーム	仙台市田子西たんぼぼホーム
29	11月4日	立町たんぼぼホーム保護者研修会「感覚と遊び」	仙台市立町たんぼぼホーム	仙台立町たんぼぼホーム
30	11月10日	田子西たんぼぼホーム保護者研修会「体の動きと感覚について」	仙台市田子西たんぼぼホーム	仙台市田子西たんぼぼホーム
31	11月11日	立町たんぼぼホーム保護者研修会「感覚と遊び」	仙台市立町たんぼぼホーム	仙台立町たんぼぼホーム
32	11月11日	国及び地方公共団体等向け障害者職業生活相談員資格認定講習	宮城労働局職業安定部職業対策課	仙台第4合同庁舎
33	11月17日	託児ボランティアフォローアップ研修	教育局生涯学習支援センター	仙台市生涯学習センター
34	11月21日	西花苑たんぼぼホーム保護者研修会「感覚と遊び」	西花苑たんぼぼホーム	西花苑たんぼぼホーム
35	11月22日	西花苑たんぼぼホーム保護者研修会「感覚と遊び」	西花苑たんぼぼホーム	西花苑たんぼぼホーム
36	11月24日	宮城総合支所保健福祉課精神保健福祉家族教室	宮城総合支所 保健福祉課	宮城総合支所
37	11月24日	太白区ポスト係長マネジメント研修	太白区総務課	太白区役所
38	12月2日	養護教諭5年経験者研修・中堅養護教諭資質向上研修	教育センター	教育センター
39	12月5日	東北電力「人権講演会」	東北電力株式会社ビジネスサポート部人材部	東北電力本社
40	12月5日	特別支援保育研修	仙台市社会福祉協議会	東京エレクトロンホール宮城
41	12月8日	青葉短期大学研修	青葉短期大学	青葉短期大学
42	12月15日	通級指導教室担当者研修会	特別支援教育課	教育センター
43	12月22日	宮城教育大学教育体験初年次演習Ⅱ（初等クラス）	宮城教育大学	宮城教育大学
44	12月22日	あおぞらホーム保護者研修会「言葉の育ち」	あおぞらホーム	あおぞらホーム
45	12月26日	5歳児発達相談従事者研修会	子ども家庭保健課	仙台上杉分庁舎
46	1月30日	特別支援教育コーディネーター連絡協議会	特別支援教育課	オンライン
44	2月6日	障害者職業生活相談員資格認定講習	独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構	ポリテクセンター宮城
45	2月7日	ろりぼっぶ泉中央南園職員研修	ろりぼっぶ泉中央南園	ろりぼっぶ泉中央南園
46	2月8日	仙台市小学校教育研究会特別支援教育部会「自閉症・情緒ブロック」研修会	仙台市小学校教育研究会	南吉成小学校
47	2月8日	仙台市小学校教育研究会特別支援教育部会研修会	仙台市小学校教育研究会特別支援教育部会	南吉成小学校
48	2月15日	仙台市保育所連合会主任保育士会研修	仙台市保育所連合会	オンワード樫山ビル10階会議室
49	2月16日	図書館研修	宮城野図書館	泉図書館

5 視察・実習受入状況

(1) 視察・見学

新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、視察・見学の受け入れはなかった。

(2) 実習

公衆衛生看護学実習，地域看護学実習，臨床心理実習，社会福祉現場体験学習，教員の機関研修等の受け入れを行っている。

	回数	人数
学生	5	15
教員	2	7
計	7	22

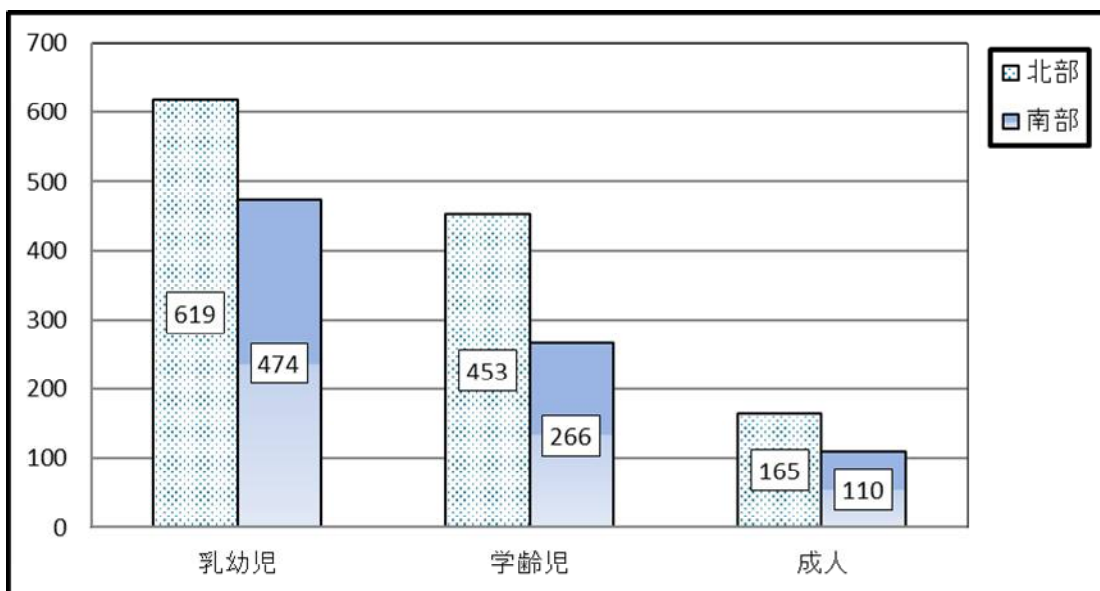
IV 参考資料

1 南北別 発達相談件数

令和4年度の相談総数 12,668 件のうち、北部発達相談支援センター分は 7,530 件 (59.4%)、南部発達相談支援センター分は 5,138 件 (40.6%) となっている。

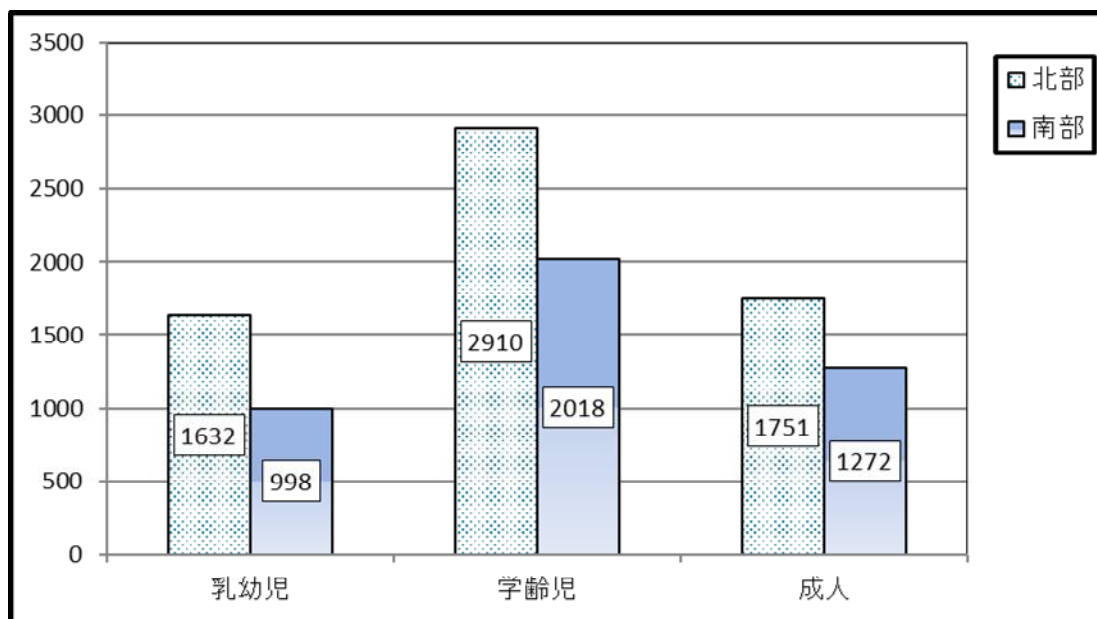
(図 A-1) 新規相談のライフステージ別内訳(南北別)

(単位:件)



(図 A-2) 継続相談のライフステージ別内訳(南北別)

(単位:件)



アーチルニュース

ちえなっぴ

第36号

《発行・連絡先》

仙台市北部発達相談支援センター(北部アーチル)

電話:022-375-0110, FAX:022-375-0142

仙台市南部発達相談支援センター(南部アーチル)

電話:022-247-3801, FAX:022-247-3819

※アーチルは「仙台市発達相談支援センター」の愛称です。子供から大人まで、発達障害のある方の支援を行っています。

※ちえなっぴは「CHIN UP! (前を向いて)」の意味です。

これからの10年に向けて

『育ち』と『暮らし』を支えるアーチル」を合言葉に開所したアーチルは、令和4年4月に満20年を迎えました。

「生涯ケアの実現」を目指して、この20年間、個別の相談支援に加えて、理解者の拡大や支援ネットワーク形成等本人や家族が生活しやすくなるための環境調整等にも取り組んできました。

開所からアーチルが大切にしてきた考え方、すなわち

- ① 本人らしく生きることが出来る社会の実現を共通課題に、本人・家族・支援者・市民が協働する。
 - ② 本人の生きづらさや家族の育てにくさに着目して診断前から支援を開始する。
 - ③ 二次障害予防の観点から支援する。
 - ④ 本人の自己決定・自己実現を支援する。
 - ⑤ 多領域が協働して生涯に渡り一貫して支援する。
- は、20年経った今も、これから先にも大切な考え方です。

そして、これからの10年、これまで以上に大切になるのは「連携・協働による支援の推進」でしょう。身近な地域で本人が望むサポートが届くよう、「つながる(支援ネットワーク)」「育てる(人材育成)」「広げる(理解者拡大)」「創る(社会資源の創出)」をキーワードに、多くの機関や様々な方々と連携・協働による支援をさらに進めていきたいと思っています。

北部アーチル所長 蔦森 武夫

北部アーチル(H14年4月開所)



南部アーチル(H24年1月開所)



アーチル20周年記念 研修会を開催しました!

日時: 令和4年11月29日(火)
13時30分~

場所: 日立システムズホール
仙台 シアターホール

第1部: 講演

講師: 本田 秀夫 先生

第2部: シンポジウム

開催報告は、
裏面をご参照ください!

4月2日

4月2日~4月8日

「世界自閉症啓発デー」 「発達障害啓発週間」 ブルーライトアップ in みやぎを開催します!

「癒し・希望・平穏」を表し、自閉症啓発デーのシンボルカラーである、ブルーの光でライトアップします。

日時: 令和5年4月2日(日)~4月8日(土)

★三井アウトレットパーク仙台港 観覧車「ポートフラワー」

★仙台放送大年寺山送信所鉄塔「スカイキャンドル」

※仙台放送のイベント状況により、日時変更または中止となる場合があります。

主催: 宮城県・宮城県発達障害者支援センターえくぼ
北部アーチル・南部アーチル



《ホームページ》 <http://www.city.sendai.jp/kenkou/hattatsu/gaiyou/> もしくは「アーチル」で検索

※この広報紙についてのご意見・お問い合わせは北部アーチルまでお願いします。

アーチル 20 周年記念研修会開催報告 「発達障害児者支援のこれからを考える」

これまでのアーチルの相談支援や支援システムについて振り返り、今後の本人や家族にとっての相談支援、支援システムについて考える機会として「20 周年記念研修会」を開催しました。

第 1 部 講演「発達障害児者支援の現状・課題と今後の展望 ～10 年後を見据えて～」

講師：信州大学医学部子どものこころの発達医学教室 教授 本田秀夫 氏
信州大学医学部附属病院子どものこころ診療部 部長



NHK のハートネット TV にご出演されているほか、多数の著書もご出版！

共生のポイント

話題の一部をご紹介します！

すべての人に対して、多様な視点があることを知る、異なる立場の人を疎外しない、不要な攻撃をしない。同じことをすることを強制しない。“みんな一緒”を求めない。

ただ、どうしても守れない人もいるので、社会的弱者を守るために法整備を進めることも必要。定型発達でないといけなのではなく、色々な育ちがあることがあたりまえと思える社会になって欲しい。そういう仕組み作りをしていくことが行政の役割。

インクルージョン教育

発達障害を持つ人だけでなく、それ以外の人達にも自然に生活できる仕組みや環境を整えることがユニバーサルデザインである。ユニバーサルデザインだけでは対応が難しく、個別の支援が必要な場合に合理的配慮をする。ここまですべてを通常のクラス、会社でやっていく。それと同時に、当事者同士（少数派）の交流の場を意識して確保する必要がある。両方が必要で、この 2 本立てでインクルージョン教育といえる。

インクルージョンを担う人材は、通常学級の園や学校の保育士・教員の方なので、人材育成は、それを障害の担当部署ではなく、一般の担当部署で担うことが望ましい。

第 2 部 シンポジウム「仙台市のこれからの支援を考える～それぞれの立場から～」

アーチルに関連の深い、乳幼児期の支援者、学齢児期の支援者、保護者の方、当事者の皆様をシンポジストにお招きし、仙台市の発達障害児者支援の次の 10 年に向けて、メッセージをいただきました！

親子がより身近な地域で、安心して過ごせるように、児童発達支援センターとして、様々な支援機関と協働していくためのスキルアップ！複雑な課題に対応できる人材が必要で保護者支援に力を入れてきた強みを活かしていきます。

大野田たんぽぽホーム 小野寺園長



特別支援コーディネーターが効果的に動ける（専任できる）体制づくりを考えていきたい。ユニバーサルデザインの考えに基づいた授業、人材育成を考えていきます。教育と福祉の連携は必須！今後も継続していきたいです。

木町通小学校 原校長



学齢期のお母さん（保護者）の気持ちを受止める場やつながりの場がもっとあるといいな。色々な“支援の場”で行われている支援は、本人や家族の求めることとマッチしているか？を考えて欲しい！

保護者の方



本人が主体的にそれぞれの望む生活ができるように、「居場所」と「理解者」が必要です。本人が必要な情報へのアクセスしやすい仕組みや行政と協働で心のバリアをなくす取り組みが活性化することを期待しています！

当事者の方



令和5年度 事業概要

令和5年9月

編集・発行 仙台市北部発達相談支援センター
仙台市泉区泉中央二丁目24番地の1
(TEL: 022-375-0110 FAX: 022-375-0142)

仙台市南部発達相談支援センター
仙台市太白区長町南三丁目1番30号
(TEL: 022-247-3801 FAX: 022-247-3819)

(ホームページ)

<http://www.city.sendai.jp/kikakusomu/kurashi/kenkotofukushi/shogai/shien/shiencenter/sodanshien/index.html>
